

科目名	現代文明とコミュニケーション		
担当教員名	川口 英俊、阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質：

本科目は社会情報学科の専門科目として位置づけられる。

科目の概要：

しばしば、「政治・は出来上がりつつある法律であり、法律は出来上がった政治である」といわれるように、法律学と政治学は互いに密接な関係にある。そこで、この講義は、政治学・法学の入門編として、国の仕組み、くらしの仕組みを学びながら、現代文明とコミュニケーションのあり方を考察する。

科目の目的：

現代社会の仕組みをよりよく理解する。

内容

- 国際社会の仕組み 1 国連、国際社会の中での日本
 - 国際社会の仕組み 2 アメリカ、ヨーロッパ、新興国、発展途上国
 - 国際社会の仕組み 3 民主主義・非民主主義、戦争と平和、核と世界
 - 日本の仕組み 1 議会制民主主義、三権分立
 - 日本の仕組み 2 日本の課題-少子高齢化、社会保障、財政赤字、国際関係
 - 日本の仕組み 3 戦後政治史、日本社会の変化、現在の政治
 - 現代社会の仕組み コミュニケーション革命、インターネット、電子化
 - 紛争解決の仕組み 1 三権分立の中の司法の位置づけ、裁判
 - 紛争解決の仕組み 2 国民が裁判に参加する仕組み
 - 紛争解決の仕組み 3 法律問題を扱う人々
 - 紛争解決の仕組み 4 裁判以外の紛争解決方法
 - 私たちの社会と法 1 市民の司法アクセス上の課題
 - 私たちの社会と法 2 司法制度改革
 - 私たちの社会と法 3 情報化社会と法
- まとめ

評価

授業態度・提出物および小テストの結果を総合評価する。

前半の担当者50%、後半の担当者50%の持ち分の合計で評価する。

100点満点中60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示する。また、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	NGO・NPOとコミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コース専門科目として、現代社会におけるNGOやNPOの活動について学ぶ。

私たちは、社会の中で色々な活動をする。学生として勉強する。生活者として働く。選挙の時には、有権者として投票する。特定の団体のメンバーとして、他のメンバーと共通の目的のために活動することもある。そんな様々な活動の中で、最近、社会の一員(市民)としての行動に関心が集まっている。そのように、人々が組織を作って社会のために活動する団体が、非政府団体(NGO)や非営利団体(NPO)と呼ばれるものだ。この授業では、人々が市民として新たに行動を起こす理由や目的、結成した団体の特徴、社会での活動の意義、政府や他の社会組織との関係、さらには、国際社会での協力関係や役割など、NGO やNPO の活動について、多角的に検証する。

NGOやNPOの活動の現状を理解し、社会における市民の役割を考える。

内容

講義のテーマは以下の通り。

1. 市民社会における社会運動:近代史
2. 市民社会における社会運動:現代史
3. 社会運動の組織化
4. NGO・NPOの誕生
5. 活動の動機: どうして活動を始めるのか
6. 活動の種類・目的: 何をを目指すのか
7. 活動内容: 何をするのか
8. 活動の拡大: 誰と協力したのか
9. 活動の成果: 何を達成したのか
10. 活動の影響(1): 人々の意識
11. 活動の影響(2): 地域社会
12. 活動の影響(3): 経済
13. 活動の影響(4): 国際社会
14. 市民社会の発展
15. まとめ

評価

レポート(45%)、試験(55%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大畑裕嗣 他 『社会運動の社会学』 有斐閣選書、2004 年

【推薦書】目加田説子 『行動する市民が世界を変えた』 毎日新聞社、2009年

【参考図書】長谷川公一 編 『講座環境社会学・環境運動と政策のダイナミズム』 有斐閣、2001 年

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コース専門科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段(言語、非言語)が充分でないからなのか、それとも、考え方(文化)が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容

講義で論じるテーマは以下の通り。

1. 異文化コミュニケーション研究の歴史(1): 外なる異文化
2. 異文化コミュニケーション研究の歴史(2): 内なる異文化
3. コミュニケーション: 何を伝えるのか
4. コミュニケーション: どうやって伝えるか
5. 異文化: 文化とは何か
6. 非言語コミュニケーション(1): 動作
7. 非言語コミュニケーション(2): 外見
8. 言語によるコミュニケーション(1): 言語
9. 言語によるコミュニケーション(2): 思考
10. コミュニケーション・スタイル
11. 異文化理解
12. メディアと異文化
13. 国際社会における異文化コミュニケーション
14. 多文化世界: 異文化の融合と共生
15. まとめ

評価

レポート(50%)、試験(50%)で総合評価。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鍋倉健悦 『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー 1997年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	国際政治論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生以上のコース専門科目として、国際的視野を養う。

21 世紀に入った国際社会はどのような問題に直面しているのだろうか。これまでの国際問題とは違う、新たな問題が発生しているのだろうか。この講義では、20 世紀後半の国際関係の流れを再考し、その上で、現在の国際社会の問題の特徴を探る。国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物(主体)、話し合われる事柄、その背景の理解を通じて、多角的に捉えていく。

国際政治とは、自分から遠いところで、自分に関係なく動いているものではないことを学んでほしい。

* 同時に「北アメリカとヨーロッパ地域研究概論」を履修すれば参考になるが、この講義のみの履修も可能。

内容

講義で取り上げる代表的なトピックは以下の通り。

1. 国際関係をみる視点：日本の役割
2. 20世紀の国際関係(1)：冷戦の始まり
3. 20世紀の国際関係(2)：冷戦の終結
4. 地域紛争(1)：歴史
5. 地域紛争(2)：現状
6. テロリズム
7. 南北問題(1)：格差
8. 南北問題(2)：貧困
9. 環境問題(1)；地球環境問題
10. 環境問題(2)：国際協力
11. 人権問題
12. 国際社会の協力関係(1)：グローバル化
13. 国際社会の協力関係(2)：リージョナリゼーション
14. 21世紀の国際社会と日本
15. まとめ

評価

レポート(50%)、試験(50%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】羽場久美子・増田正人 編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003 年
- 【推薦書】小林誠 他『グローバル・ポリティクス - 世界の再構造化と新しい政治学』有信堂、
2003 年 319.04/G
- 【参考図書】猪口孝 編『国際関係リーディングズ』東洋書林 2004年
- 東大作『平和構築 - アフガン、東ティモールの現場から』岩波新書 2009年

科目名	国際協力論		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

国連など国際機関の成立の由来、活動の特徴や概要、並びに日本など先進国が開発途上国に対して行う国際協力の現状と課題について、理解を深めるための現代社会コースの専門科目。

科目の概要

インターネット、新聞記事、ビデオなどを通して、現状と課題を把握することを目的とする。年々重要性増している国際的なNGOの活動の現状と課題も検討する。

国連、ユニセフ、ユネスコ、ILO、IOM など国際機関、専門機関の成立の経緯、歴史、活動概要などをビデオ、DVDなど視聴覚資料を使いながら理解する。さらに、政府のレベルやNGOとして活躍しているゲスト講師を招き、最新の状況について理解する。

学修目標

国際機関、国際協力について理解を進めるだけでなく、自分は何ができるか考え、行動ができることを目標とする。グローバル化の進展に伴い、国連など国際機関の活動が重要視されるようになった。世界銀行からの借款により東海道新幹線や黒部ダム建設をした日本も、急激な経済発展をして先進国の仲間入りをし、ODA の額では世界有数の国として成長した。しかし、近年の国家財政不安からDOAの額は毎年減少している。なぜ日本がODAを提供する必要があるかについて、学生たちが考える機会となって欲しい。

内容

1	国際協力とは何か(2国間、多国間)、低開発国/開発途上国/先進国の基準とは何か
2	国連の仕組み、国連の活動について資料の配布と説明
3	国連活動:人権関係 人権宣言、人権委員会~人権理事会へ(ビデオ:人権宣言のできるまで)
4	国連の活動:安全保障理事会 PKO 安保理決議1325、世界銀行、ジニ係数と貧困度
5	ミレニアム開発目標 貧困撲滅、教育の普及、妊産婦死亡の減少、ジェンダー平等、HIVエイズ
6	専門機関における活動 ILO (ビデオ:児童労働)
7	国連関係機関における活動 IOM 人の移動、人身取引(ビデオ:IOM人身売買)
8	国連以外の国際機関ASEAN、APEC、OECDなどの活動 国際NGOの活動
9	日本政府のODAの状況 ODAのあり方
10	新聞記事切り抜きの報告2 JICAの活動 APWWの活動、国際協力関係常識問題
11	JICA(国際協力事業団)青年海外協力隊の活動(JICA派遣ゲスト講師)
12	NGOとは ビデオ『世界社会フォーラム2005』
13	国連の男女平等のための活動:女性差別撤廃条約、選択議定書、女性に対する暴力撤廃宣言など
14	まとめ
15	就職試験のための国際関係常識問題

評価

試験 (60%)、課題 (25%)、ワークシートの内容 (15%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

- 『国際協力ガイド 2006』国際開発ジャーナル社 2006
- 『政府開発援助 (ODA) 白書 2010』外務省 2010
- 『人間開発報告書 2010』国連開発計画 2011

科目名	現代社会生活動向分析（時事解説）		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説（講義）するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度前期（4月～7月）に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 2010年の展望（授業ガイダンスを兼ねて）
- 2) 巨大地震はいつ日本を襲うか
- 3) 事業仕分けと行政改革
- 4) 殺人罪の時効廃止と刑務所民営化
- 5) 裁判員制度1周年
- 6) 沖縄・普天間基地問題
- 7) ワールド杯とビジネス効果
- 8) 自殺社会
- 9) どうなる！北朝鮮問題
- 10) 日米安保50周年
- 11) 消費者金融と貸金業法
- 12) 参議院選挙ってなあに？
- 13) 参議院選挙結果
- 14) 子育てと法律
- 15) i-Pad

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。（第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない）

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点 60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	現代社会生活動向分析（時事解説）		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説（講義）するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に興味を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度後期（9月～11年1月）に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 参議院選挙をめぐって
- 2) 円高と日本経済
- 3) 刑場公開～死刑制度とメディア～
- 4) なぜ冤罪は絶えないのか
- 5) 国民の司法への信頼
- 6) 日中関係～過去・現在・未来～
- 7) 米中間選挙～米経済とオバマ不人気～
- 8) 生物多様性条約
- 9) 菅内閣とその課題
- 10) 領土問題～北方領土・尖閣諸島・竹島～
- 11) 地球温暖化問題
- 12) 大学生の就職活動
- 13) 北朝鮮の核政策と6者協議
- 14) 不妊治療と出産の制度的課題
- 15) まとめ（2010年総括と2011年展望）

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。（第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない）

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点　60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配テーマ布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	時事解説（前編）		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説（講義）するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度前期（4月～7月）に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 2010年の展望（授業ガイダンスを兼ねて）
- 2) 巨大地震はいつ日本を襲うか
- 3) 事業仕分けと行政改革
- 4) 殺人罪の時効廃止と刑務所民営化
- 5) 裁判員制度1周年
- 6) 沖縄・普天間基地問題
- 7) ワールド杯とビジネス効果
- 8) 自殺社会
- 9) どうなる！北朝鮮問題
- 10) 日米安保50周年
- 11) 消費者金融と貸金業法
- 12) 参議院選挙ってなあに？
- 13) 参議院選挙結果
- 14) 子育てと法律
- 15) i-Pad

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。（第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない）

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点　60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	時事解説（後編）		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説（講義）するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に興味を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度後期（9月～11年1月）に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 参議院選挙をめぐって
- 2) 円高と日本経済
- 3) 刑場公開～死刑制度とメディア～
- 4) なぜ冤罪は絶えないのか
- 5) 国民の司法への信頼
- 6) 日中関係～過去・現在・未来～
- 7) 米中間選挙～米経済とオバマ不人気～
- 8) 生物多様性条約
- 9) 菅内閣とその課題
- 10) 領土問題～北方領土・尖閣諸島・竹島～
- 11) 地球温暖化問題
- 12) 大学生の就職活動
- 13) 北朝鮮の核政策と6者協議
- 14) 不妊治療と出産の制度的課題
- 15) まとめ（2010年総括と2011年展望）

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。（第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない）

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点 60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配テーマ布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	オーラルコミュニケーション		
担当教員名	アンソニー ルファ		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in business, education, and social situations are enhanced.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three-Review of basic vocabulary and grammar.

Week Four to Six-Presentations and speaking assignments on various topics

Week Seven to Nine-Oral practice, review of "do", "make", "take", and "have".

Week Ten-video lesson with assigned tasks

Week Eleven to Thirteen-Review and Evaluation of student projects, cultural insights, and pop music listening exercises

Week Fourteen to Fifteen-Review and Final Presentation

評価

Students are evaluated on performance and activities (50%), presentations and projects (30%), and a final test or

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	オーラルコミュニケーション		
担当教員名	アンソニー ルファ		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in business, education, and social situations are enhanced.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three-Review of basic vocabulary and grammar.

Week Four to Six-Presentations and speaking assignments on various topics

Week Seven to Nine-Oral practice, review of "do", "make", "take", and "have".

Week Ten-video lesson with assigned tasks

Week Eleven to Thirteen-Review and Evaluation of student projects, cultural insights, and pop music listening exercises

Week Fourteen to Fifteen-Review and Final Presentation

評価

Students are evaluated on performance and activities (50%), presentations and projects (30%), and a final test or

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	時事英語		
担当教員名	湊 和夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、新聞・放送の英語ニュースの理解力を高めることを目標とする。受講者は全員が現代社会コースの学生であり、その必修科目なので、テキストブックも、政治、経済、外交、軍事、環境からスポーツまで、現代社会の理解に必要な分野をほぼ網羅するものを選定した。

受講者が自宅で予習する場合には、テキストブックを黙読するのではなく、大きな声で朗読してほしい(音声ファイルの無料ダウンロードが可能になっている)。native speaker が文章のどの個所で区切って読んでいるか、注目して、真似してほしい。

授業では、毎回、ほぼ全員が発言・発表を求められる。期末テストとは別に、定期的に小テストを実施する。

内容

1 回目の授業では、時事英語に特有な語法や表現について講義する。

2 回目以降の授業では、テキストブックの各章の順を追って、各章を 1 回もしくは 2 回で終えるようにしながら講義を進める。

テキストブックは次の 10 章から成る。

- 第 1 章 国内政治
- 第 2 章 ビジネス
- 第 3 章 外交・国際会議
- 第 4 章 海外トピックス
- 第 5 章 軍事
- 第 6 章 災害・気象
- 第 7 章 犯罪・司法
- 第 8 章 環境・公害
- 第 9 章 科学・医療
- 第 10 章 スポーツ

15 回目の授業で「まとめ」を行う。

評価

口頭発表と小テスト(40点)、試験(60点)、計100点満点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

堀江洋文ほか4人共著 English for Mass Communication --2011 Edition (時事英語の総合演習
2011年度版) 朝日出版社。

科目名	時事英語		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、新聞・放送の英語ニュースの理解力を高めることを目標とする。受講者は全員が現代社会コースの学生であり、その必修科目なので、テキストブックも、政治、経済、外交、軍事、環境からスポーツまで、現代社会の理解に必要な分野をほぼ網羅するものを選定した。

受講者が自宅で予習する場合には、テキストブックを黙読するのではなく、大きな声で朗読してほしい(音声ファイルの無料ダウンロードが可能になっている)。native speaker が文章のどの個所で区切って読んでいるか、注目して、真似してほしい。

授業では、毎回、ほぼ全員が発言・発表を求められる。期末テストとは別に、定期的に小テストを実施する。

内容

1 回目の授業では、時事英語に特有な語法や表現について講義する。

2 回目以降の授業では、テキストブックの各章の順を追って、各章を 1 回もしくは 2 回で終えるようにしながら講義を進める。

テキストブックは次の 10 章から成る。

- 第 1 章 国内政治
- 第 2 章 ビジネス
- 第 3 章 外交・国際会議
- 第 4 章 海外トピックス
- 第 5 章 軍事
- 第 6 章 災害・気象
- 第 7 章 犯罪・司法
- 第 8 章 環境・公害
- 第 9 章 科学・医療
- 第 10 章 スポーツ

15 回目の授業で「まとめ」を行う。

評価

口頭発表と小テスト(40点)、試験(60点)、計100点満点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

堀江洋文ほか4人共著 English for Mass Communication --2011 Edition (時事英語の総合演習
2011年度版) 朝日出版社。

科目名	生活と統計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

Excelの表計算ツールを使って統計の基礎知識を習得します。「統計」と聞くと難しそうな感じがしますが、扱うデータは人口、結婚、家族、家計、地域、生活時間など、私たちの暮らしについての身近なデータです。どのような性質のデータには、どのような集計方法がふさわしいのか、生活の中で役立つ統計データを効率よく電算処理できるよう、知識と技術を習得します。

内容

1	ガイダンス
2	資的データと量的データ
3	単純集計1：度数分布とヒストグラム
4	単純集計2：相対度数分布と累積度数分布
5	単純集計3：代表値
6	単純集計4：分布
7	単純集計5：分散
8	単純集計6：標準偏差
9	クロス集計1：クロス表と散布図
10	クロス集計2：カイ2乗
11	クロス集計3：相関関係
12	クロス集計4：疑似相関とエラレーション
13	時系列分析1：指数と対前年度比
14	時系列分析2：移動平均と寄与率
15	総括

評価

授業時の課題提出(40%)と単元毎の課題提出(60%)によって評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

『日本の統計2011』総務省統計局、2011年。

『世界の統計2011』総務省統計局、2011年。

ボンシュテット&ノーキ著、海野道郎&中村隆監訳『社会統計学』、ハーベスト社、1990年。

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスコミ4媒体から驚異的な普及でその影響力を延ばすインターネットに人々の関心は移り、仕事や研究、私生活を取り巻く環境は一変した。

しかし「情報」の重要度が高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる我々は混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア企業だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と(再)利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー *番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット *番組視聴
- 11) 匿名発表&匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪&精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点+ミニレポート40点=100点 60点以上が合格

*ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	社会調査技法（量的調査）		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には大きく言って、数量データを統計的手法によって分析する量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。本科目では、特にそのうちの量的調査の基本を体系的に学び、量的調査データの収集および利用に必要な知識を習得する。

まず最初に、量的調査の事例より社会調査の基本的性格を確認する。ついで、社会調査の歴史を確認しながら量的調査の系譜を学ぶ。そうした上で、量的調査の設計（調査方法の決定、対象の選定、調査票の作成）に必要な基本技術を学習し、最後には、データアーカイブの構築やデータの二次利用ならびに調査倫理について考える。

内容

1	ガイダンス
2	社会調査の基本的性質
3	社会調査の系譜と歴史1（センサス、社会踏査）
4	社会調査の系譜と歴史2（世論調査、市場調査、社会調査）
5	社会調査の諸方法（研究方法、調査対象範囲、現地調査の方法）
6	社会調査の手順と過程（調査設計、実査、結果の分析、調査報告）
7	サンプリングの理論と技術1（標本抽出、標本誤差）
8	サンプリングの理論と技術2（標準誤差、標本数の決定）
9	サンプリングの理論と技術3（無作為抽出）
10	質問紙および調査票の作成技術1（質問項目、ワーディング、質問文の作成）
11	質問紙および調査票の作成技術2（回答形式、調査票の構成と体裁）
12	質問紙および調査票の作成技術3（尺度設定）
13	社会調査の今日的課題1（データアーカイブの構築とデータの二次利用）
14	社会調査の今日的課題2（調査倫理と法整備）
15	総括

評価

単元毎の計4回の課題（各25%）で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋・永野 武 編著『社会調査へのアプローチ - 理論と方法 - 』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。【参考図書】

酒井 隆 著『アンケート調査と統計解析がわかる本』、日本能率協会、2003年。

科目名	社会調査技法（質的調査）		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった、質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり（自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計）、学期には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施し、結果をレポートにまとめて提出する。

内容

1	はじめに（質的調査の種類）
2	ドキュメント分析1：公的記録の分析（広報や新聞など）
3	ドキュメント分析1：私的記録の分析（日記・ブログ、手紙・電子掲示板など）
4	ドキュメント分析1：私的記録の分析（自分史の分析）
5	インタビュー調査1：インタビューの種類（構造化面接と非構造化面接）
6	インタビュー調査2：インタビュー調査の事例1（ライフヒストリー）
7	インタビュー調査3：インタビュー調査の事例2（フォーカスグループインタビュー）
8	インタビュー調査4：インタビュー調査の設計（ラポールの作り方）
9	非参与観察1：非参与観察の事例1（写真を使った分析）
10	非参与観察2：非参与観察の事例2（タウンウォッチング）
11	非参与観察3：非参与観察の設計（タウンウォッチングの計画）
12	参与観察1：参与観察の事例（ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』）
13	参与観察2：参与観察の技法（フィールドノーツの書き方）
14	参与観察3：参与観察の設計（イベント参加やボランティア体験など）
15	総括（質的調査と倫理）

評価

授業時の課題提出（40%）と学期末のレポート（60%）で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	社会情報処理演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術の習得を第一目標とするが、それだけにとどまらず与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につけることを目指したい。与えられたテーマを望まれているように加工する技術も必要だが、自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につけることを大目標としたい。

内容

以下の内容を基本とする。なるべくレポート作成や発表といった実践の中で学ぶことを目指す。

- ・基本的パソコン技術
- ・参考文献検索・収集技術
- ・レポートの書き方に関する基本的技術プラスアルファ
- ・レポートに取り込むための図表作成(エクセルによる)
- ・レジュメ作成 - 構成の作り方
- ・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術

評価

課題(30%)、発表(30%)、平常点(40%)等を総合的に判断する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

学習技術研究会「知へのステップ 改訂版」くろしお出版

佐藤望 他「アカデミック・スキルズ」慶応義塾大学出版会

カーマイン・ガロ「スティーブン・ジョブズ 驚異のプレゼン」日経BP社

科目名	社会情報処理演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会調査科目(必修)の 科目、1年次の情報処理演習で習得したパソコン操作技術の中でも、Access によるデータベース管理について、発展的に学習

科目の概要

ACCESSというリレーショナルデータベースの基礎を学ぶとともに、販売管理などを題材としてデータの構造を考え、Access を用いたデータベースの作成・管理・活用方法を学び、最後に自分でデータベースを作る。

学修目標

, 4年の卒業研究あ、将来、職場や趣味で活用できるようにACCESSというリレーショナル・データベースの概念、構造、設計、作成、活用技術を、発展的に学習し、理論と技術を身につける。

内容

1	データベースとは
2	アクセスの基礎知識 アクセスの概要 データベースを自分のフォルダSに保存、起動、終了
3	データベースの設計と作成
4	テーブルの構造、テーブルの作成1(商品マスター、得意先マスター)
5	テーブルの作成2(売り上げデータマスター)
6	リレーションシップとは、リレーションシップの作成
7	簡単なクエリの作成 1
8	簡単なクエリの作成 2
9	ゼミ説明会 フォームの作成、 入力画面の作成
10	レポートの作成
11	複雑なクエリの作成 1
12	複雑なクエリの作成 2
13	自分でデータベースを設計し、データを集め、構築する 1
14	自分でデータベースを設計し、データを集め、構築する 2
15	データベースの発表

評価

作成したデータベース(70%)、毎回の成果(30%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	社会情報処理演習（プレゼンテーション）		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術の習得を第一目標とするが、それだけにとどまらず与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につけることを目指したい。与えられたテーマを望まれているように加工する技術も必要だが、自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につけることを大目標としたい。

内容

以下の内容を基本とする。なるべくレポート作成や発表といった実践の中で学ぶことを目指す。

- ・基本的パソコン技術
- ・参考文献検索・収集技術
- ・レポートの書き方に関する基本的技術プラスアルファ
- ・レポートに取り込むための図表作成（エクセルによる）
- ・レジュメ作成 - 構成の作り方
- ・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術

評価

課題（30%）、発表（30%）、平常点（40%）等を総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

学習技術研究会「知へのステップ 改訂版」くろしお出版

佐藤望 他「アカデミック・スキルズ」慶応義塾大学出版会

カーマイン・ガロ「スティーブン・ジョブズ 驚異のプレゼン」日経BP社

科目名	社会情報処理演習 (データベース)		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会調査科目(必修)の 科目、1年次の情報処理演習で習得したパソコン操作技術の中でも、Access によるデータベース管理について、発展的に学習

科目の概要

ACCESSというリレーショナルデータベースの基礎を学ぶとともに、販売管理などを題材としてデータの構造を考え、Access を用いたデータベースの作成・管理・活用方法を学び、最後に自分でデータベースを作る。

学修目標

, 4年の卒業研究あ、将来、職場や趣味で活用できるようにACCESSというリレーショナル・データベースの概念、構造、設計、作成、活用技術を、発展的に学習し、理論と技術を身につける。

内容

1	データベースとは
2	アクセスの基礎知識 アクセスの概要 データベースを自分のフォルダSに保存、起動、終了
3	データベースの設計と作成
4	テーブルの構造、テーブルの作成1(商品マスター、得意先マスター)
5	テーブルの作成2(売り上げデータマスター)
6	リレーションシップとは、リレーションシップの作成
7	簡単なクエリの作成 1
8	簡単なクエリの作成 2
9	ゼミ説明会 フォームの作成、 入力画面の作成
10	レポートの作成
11	複雑なクエリの作成 1
12	複雑なクエリの作成 2
13	自分でデータベースを設計し、データを集め、構築する 1
14	自分でデータベースを設計し、データを集め、構築する 2
15	データベースの発表

評価

作成したデータベース(70%)、毎回の成果(30%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	地域社会と住民参加		
担当教員名	内野 伸之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人びとの暮らしは各個人の意思と責任で営まれるが私的な立場では対応できないこともあり、それを補うのが行政の役割であるから、行政に民意を反映させることは民主社会の基本で、この科目はそのことを中心に考える。

わが国の行政は国と地方自治体の二元的構造になっている。特に市民生活の身近な問題に深くかかわる地方自治体の行政活動は重要で、住民の意向を効果的に反映させなければならない。こうした点に積極的に取り組んでいる各地域の自治体とその住民の主体的なかかわり方などにも着目しつつ自分たちのことは自分で決めるという住民自治の原点について考察する。

学修目標としては、(1)行政の仕組みを知り、国と自治体の役割分担を理解する、(2)住民の意向を行政に反映させる制度の類型を理解する、(3)行政活動の根拠となる法律と条例の関係を理解する。

内容

1	市民社会と行政の役割
2	行政はどのような方法で行われるか(1)
3	同 上 (2)
4	法律と条例の関係
5	地域住民の権利と義務
6	直接請求制度と住民投票制度
7	環境保全と自治体の役割
8	都市環境とその判断基準
9	自治体の開発規制の方法 条例、協定、要綱
10	行政上の利害の調整(1)
11	同 上 (2)
12	消費者問題への自治体の関わり
13	商業広告と規制立法
14	情報公開制度と住民の知る権利
15	まとめ

評価

前半終了時の小レポート(20%)と最終レポート(80%)で評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず
 況に合わせて適宜紹介

【推薦書】授業の状

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、その限界を検証しながら賢い消費者としての知識を身につける。

内容

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【各論】高齢者・未成年者の法律問題
5	【各論】金融機関と消費者問題
6	【各論】信用取引と消費者問題
7	【各論】破産・倒産と消費者
8	【各論】マルチ商法・ネズミ講
9	【各論】不動産と消費者問題(前半)
10	【各論】不動産と消費者問題(後半)
11	【各論】情報化社会と消費者問題
12	【紛争解決と消費者】裁判所と消費者、裁判所以外の窓口(ADR)と消費者
13	【紛争解決と消費者】行政と消費者
14	【紛争解決と消費者】教育と消費者
15	まとめ

評価

提出物・授業態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。

100点満点中50点が単位取得の下限となる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	デザインとコーディネート		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の私たちは、多種多様なデザインを施された「空間」の中で生活している。

もし、自分で実際にデザインの手法や技術を体得し表現することができるようになれば、インテリアをはじめとするデザインされた「空間」は単に眺め利用するだけのものにとどまらず、創造する対象として、より身近な存在になってくる。

デザインは、これからの社会生活における自己主張のひとつの表現のとしても重要である。

本演習は、インテリアデザインに題材を求めたものが中心になる。主に、平面と立体、室内の色彩計画等の基礎的な演習を通じて、実践的な技術の体得と豊かな空間認識、造形感覚の体得を目指すものである。

但し、使用する機材があるため、人数に制限あり。

内容

1	インテリアデザインについて
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	快適な現代生活と家庭電化製品
4	インテリアにおける色彩の役割
5	色彩の基本とシステム
6	色彩の調和理論
7	インテリアにおける素材の役割
8	インテリア素材の体験
9	インテリア素材の収集整理
10	インテリアデザインにおける図面の役割
11	図面のトレース1(基本事項)
12	図面のトレース2(平面図)
13	図面のトレース3(立面図)
14	図面のトレース4(断面図)
15	「終の棲家」の計画

評価

授業への参加度、及び随時の課題、レポートによる評価により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中で、適時参考文献を紹介する。

科目名	ユースカルチャー研究		
担当教員名	小沢 章友		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

時代の波によって絶えず変容するサブ・カルチャー。今どんなものが若者の心をとらえているのか。さらには、これからどんなものが流行の兆しを見せているのか。それらの研究を通して、現代日本の文化を自由に、柔軟に考察する。

現代のユース・カルチャーには、どういったテーマがあるのか。興味と意欲に応じて、誰がどのテーマを担当するのかを決める。担当した分野については、各自、あるいはチームで、研究と発表スタイルを考察する。

各自がテーマを深化させて、最後に研究成果レポートを提出する。

内容

ユースカルチャーの分類
 テーマの決定
 現代ファッション
 アニメ文化
 最新インターネット状況
 アミューズメント環境
 雑誌文化
 テレビ文化
 映画文化
 Jポップス
 マンガ文化
 ミュージアム状況
 海外音楽
 コミュニケーションツール
 総合レポート提出

評価

授業に対する態度、関心、意欲とプレゼンテーションの内容とで成績を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小沢章友 『三国志英雄列伝』講談社青い鳥文庫

【参考図書】小沢章友の著作

『龍之介地獄変』新潮社、『運命の環』文藝春秋社、『夢魔の森』集英社文庫、『曼荼羅華』講談社、『怪域』朝日新聞社、『荒野狼』徳間書店、『不死』小学館、『極楽鳥』角川春樹事務所、『遊民爺さん』小学館文庫、『ムーン・ドラゴン』理論社

小沢章友の怪異幻想劇場(<http://timebooktown.jp>)

科目名	シニアカルチャー研究		
担当教員名	河合 和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

今から50年前、65歳以上を高齢者と呼ぶようになった。これは高齢社会の到来を危ぶむ国連からの問題提起に起因する。当時の我が国の平均寿命は、男性64歳、女性68歳であった。この寿命を考えれば、65歳以上を高齢者と呼ぶことに抵抗はない。しかし、今では男性79歳女性86歳となり、この50年で男性は15歳、女性は18歳長命となった。まさに人生80年時代の到来である。実際、65歳、70歳を高齢者と呼ぶには抵抗がある。その年代には、その年代にふさわしいイキイキとしたカルチャーが息づいている。

「シニアカルチャー」の「シニア」とは、先輩、上級者、年長者を意味する。一方「カルチャー」とは、ラテン語の「耕す」が語源で、和訳は「文化」となる。「耕す」とは植物を育てるための準備を言い、「文化」とは、「自然にあるもの」に、人の手を加えることによって「新しく創り出されたもの」全てを言う。すなわち「カルチャー」とは、新しいものを創り出すための準備ということになる。

では、新しいものを創り出すのは何のためだろうか？ 新しい料理、新しいファッションや音楽、新しい文学等々を創り出すのは何のためだろうか？ その問いに対する一つのこたえが、「年齢を重ねてもいつまでもイキイキと自分らしく」ということになる。あなたが受講する「シニアカルチャー研究」とは、自分らしい生き方を、探し求めるための場であるということになる。

内容

- (1) 「シニアとは何か」を考える
- (2) 「カルチャーとは何か」を考える
- (3) 「シニアカルチャーとは何か」を考える
- (4) 「ジェロントロジー」という学問を学ぶ
- (5) シニアカルチャーとジェロントロジー
- (6) 「ワークライフバランス」とは何か
- (7) 「シニアの社会参加」とは何か
- (8) 自己実現を目指すシニアとは
- (9) シニアマーケットを考える
- (10) 趣味を考える
- (11) ボランティア活動について考える
- (12) シニアカルチャーとジェロントロジーを再び考える
- (13) いつまでも生き生きと自分らしく生きるには
- (14) まとめ その1
- (15) まとめ その2

評価

平常点40点、レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「定年後を楽しむ仕事の本」日本経済新聞社

科目名	フィールドスタディ「少子高齢社会」		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

確実にやってくる少子高齢化社会であるが、家族の介護などを除いては私たちがそれを実感する機会はなかなかない。フィールドスタディでは社会における少子高齢化問題の最前線に身を置くことにより「知識」+「実感」を得ること、そしてその実感を通じてさらに新たな「知識」を習得する事をねらいとする。

フィールドスタディ履修者はフィールドスタディ科目「少子高齢化と政治」（前期）を履修する。そこで少子高齢化、フィールドスタディに関する基礎知識を得た上で、フィールドスタディに参加する。また、「少子高齢時代の社会保障」（後期）を履修する。これらは1セットとなっており、フィールドスタディ履修者は前期・後期のフィールドスタディ関連科目を履修・単位修得しなければならない。

内容

少子高齢化の現場を訪問してお話を伺ったり、ボランティアを行う。事前に訪問先に関連するレポート等の課題提出、訪問後にフィールドスタディ報告書提出する。

1年間の最後に報告会を行う。

過去の例としては

- ・行政などの少子化対策を担当している部署で対策、問題点などについてのお話を伺う
- ・地域住民に介護サービスを提供する介護NPOのお話を伺う
- ・地域の子育て支援NPOのお話を伺う
- ・特別養護老人ホームなどでのボランティア
- ・保育園を訪問し見学とお話を伺う

現在のところ、特別養護老人ホームでのボランティアは毎年行っている。

評価

フィールドスタディへの参加（40%）、フィールドスタディ報告書（40%）、報告会発表（20%）などを総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

『平成22年版 厚生労働白書』

中島さおり「なぜフランスでは子どもが増えるのか」講談社現代新書

結城康博「介護」岩波新書

科目名	少子高齢時代の社会保障		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子高齢社会、人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差(ジェンダー)が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

内容

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者(児)の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

授業に関する意欲・関心および意見の発表・討議への参加態度(20点)、期末レポート(80点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

杉本貴代栄『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書 369/S

科目名	少子高齢化と政治		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の社会保障制度はいろいろな問題を突きつけられている。日本は戦後、社会保障を充実させてきたが、「私たちの頃には年金はもらえないのではないか?」「日本の介護に関する社会保障は不十分なのでは?」などといった不安を持つ人が増えている。そのような中で、少子高齢化は進行し、様々な問題を深刻化させている。これらの問題に対し政治は適切な対策を取ることができるのだろうか。その対策、課題、政治上の問題などを考える。

内容

- ・少子高齢化とは - 定義、データ、要因
- ・社会保障制度の問題点 - 年金問題、公的介護保険
- ・少子高齢化への新しい取り組み
- 地域コミュニティ主体の介護ケアセンター、介護NPO、外国人労働者の介護分野での活用
- ・少子高齢化問題の政治的側面 - 若者と高齢者の利害衝突、財政危機と福祉の負担
- ・少子高齢化の周辺 - ニート、フリーター、若年失業者、ワーキング・プア、格差社会
- ・少子高齢化対策 - 現行の対策、外国の対策

この科目はフィールドスタディ「少子高齢化社会」関連科目であり、フィールドスタディの基礎知識修得、準備などもこの授業で行われる。フィールドスタディ「少子高齢化社会」履修者は必ず履修する事。

評価

課題などの日常点(70%)、平常点(30%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中にプリント等を配布する。

【推薦書】

『平成22年版子ども・子育て白書』

『平成22年版高齢社会白書』

山田昌弘「少子社会日本」岩波新書

科目名	フィールドスタディ「環境保全と生活」		
担当教員名	田総 恵子、北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人類は産業革命以降の活動により生活を飛躍的に向上させたが、資源やエネルギーの消費により環境を汚染し、地球温暖化を招いた。また分解・吸収されない化学物質やその廃棄物等も蓄積して健康被害を引き起こし、生態系や気象をも狂わせている。現在、人と自然との調和ある関係へ向けて、環境保全が人類共通の課題である。当科目では、人間活動による大気・水の汚染や廃棄物処理等の実態を、現場に出て学び、人・生活の在り方を考える。

内容

1. 環境問題の基礎

公害や環境問題の推移、環境保護に関わる制度とその背景への理解を深める。エネルギーと排出ガス、温室効果ガスと温暖化、緑被率の低下やヒートアイランド現象、また資源循環への取り組みや廃棄物問題も把握し、水についても浄化・再生システムや湧水対策等、質・量の面から考える。

2. フィールド調査

いくつかの分野から選んで、社会の現実の動きを現場で観察・調査して考える。さらに、環境問題への人々の関心を喚起する方法について計画を立て、全国あるいは地域規模で開催される環境保護関連のイベントへの参加を予定している。

3. 調査結果の検討

イベントでのプレゼンテーション結果について話し合い、分析・検討して可能な改善点を探る。また、自分たちの生活の在り方も見直し、身近なところでできることを提案する。

評価

イベント参加(50%)及びレポート(50%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じプリントを配付し、参考書等を紹介する。

科目名	生活環境と経済開発		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 2年生対象フィールドスタディ講義科目として、環境と経済の関係の基礎を学ぶ。

環境と経済開発はどんな関係にあるのか。また、どんな関係にあるべきなのか。「環境学」は様々な角度から、この関係を研究している。講義では、生活の中での私たちの日常的な行動が、環境と経済開発の両方にどのように関係しているのか、具体的な例を取り上げて話し合っていきたい。その中で、両者の関係が、国内に留まらず、国際的に広がっている点についても考えていく。

環境保護と経済開発の関係の歴史的变化を理解する。

内容

講義では、下記のテーマについて論じていく。

1. 環境：住環境から地球環境まで
2. 環境破壊と経済開発：公害
3. 環境破壊と経済開発：水俣病
4. 環境破壊と経済開発：生活環境の悪化
5. 環境破壊と経済開発：資源の無駄使い
6. 環境破壊と経済開発：資源の枯渇
7. 環境破壊と経済開発：気候変動
8. 「持続可能な開発」
9. 環境保護と経済開発：省エネルギー
10. 環境保護と経済開発：リサイクル
11. 環境保護と経済開発：エコ・ビジネス
12. 環境保護と経済開発：国際協力
13. 環境保護と経済開発：南北問題
14. “Think Globally, Act Locally”
15. まとめ

評価

レポート(60%)、試験(40%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】加藤尚武 他 『図解スーパーゼミナール・環境学 第2版』東洋経済新報社 2004年

【推薦書】原田正純 『水俣学講義』日本評論社 2004年 493.152/H

【参考図書】瀬戸昌之 他 『文科系のための環境論・入門』有斐閣アルマ 1998 年

科目名	生活環境にやさしい商品開発		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

地球環境問題について学ぶ。フィールドスタディ「環境保全と生活」に関連する科目である。また、専門科目「地球とエコシステム」などと関連する。

科目の概要

本講義では、地球環境悪化の原因とその対策を、特に科学的な視点から捉える。次世代にこの環境を引き継ぐため、「循環」と「共生」により、持続可能な開発をいかに行っていくかを考える。

学修目標

1. エネルギーには限りがあることを理解する。
2. ごみ問題と二酸化炭素排出について理解する。
3. 地球の様々な環境問題とその原因・対策を考えることができる。

内容

1	地球の環境問題
2	エネルギーの利用
3	エネルギー資源の枯渇
4	新エネルギー
5	原子力エネルギー
6	ごみの問題-物質の循環
7	ごみの問題-プラスチック
8	ごみの問題-不燃ごみ
9	地球の環境
10	気候変動の問題-原因と現状
11	気候変動の問題-今後の予測と対策
12	大気の汚染
13	水資源の問題
14	土壌の問題
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】都築俊文ら「地球環境サイエンスシリーズ」三共出版、笠原三紀夫『エネルギーと環境の疑問』丸善、住明正『地球温暖化の真実』ウェッジ

科目名	フィールドスタディ「生活と異文化」		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

FS「生活と異文化」の実習科目 この科目のほか、前期に「グローバルゼーションと生活」、後期に「地域生活と法政策」を履修することが必要

科目の概要

学内の留学生との交流、入管、大久保の高麗博物館の見学、グローバルフェスタでのボランティアなどを体験してそのつどレポートを作成して提出

学修目標

多民族ならびに国際的な文化の違いを理解すること

内容

異文化、多文化理解を促進する一助とするために次のようなことを予定している。

学内の留学生と交流して、異文化の中での生活と勉学に就いて理解する。

入国管理局を見学して入国管理の現状と問題点を学ぶ。

新大久保のコリアタウンやタウンにある高麗博物館を見学し、多文化社会を肌で感じ、その在り方について考える。

毎年10月最初の土日に、東京の日比谷公園で開催される「グローバルフェスティバル」で、2日間、ボランティアとして活動する。

外務省など日本政府、各国の大使館、国連、ILO、ユネスコなど国際機関、国際NGOなどが参加するので、様々な国の文化の実情を知ることができ、さらにボランティアとして体験を積むこともできる。

フェスティバルでの貴重な体験に加えて、ほとんどのボランティアは社会人であるため、その人たちとの交流を通して学ぶことができる。

その他にも地元、新座市や富士見市で活動している国際交流ボランティアグループにも参加する。

そのつど、1500字程度のレポートにまとめて提出。 は2日間にわたる活動であるため、3000字

評価

課題レポート(100%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

そのつど指示

科目名	地域生活と法政策		
担当教員名	内野 伸之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はフィールドスタディ「生活と異文化」の関連科目であることを考慮し、国内における国際化の問題を法制度の視点から考える。

現代の社会の特色の一つに地域住民の多国籍化という現実がある。このような状況下で国の外国人政策や法制度は整備されつつあるが未だ十分とは言い難い。日本人と外国人が安全に暮らせる街づくりには地方自治体の行政活動も欠かせない。自治体と国の連携や住民の協力の実態を考察する。

学修目標としては、(1)わが国の将来を考えたとき、外国人との共生社会は避けられないという事情を理解する、(2)共生社会を築くにあたり、どのような点に障害があるのか、その解決策を考える、(3)多民族社会の壁を越えるために互いの文化への理解度の向上を図る。

内容

1	法政策とは何か
2	国籍をめぐる法律問題
3	出入国管理法制(1)
4	同上(2)
5	地域住民としての外国人 自由権と社会権
6	日常生活での外国人差別
7	移民をめぐる諸問題
8	外国人の就労をめぐる法律問題
9	外国人多住地域と自治体の対応
10	外国人子女の教育問題
11	条約と国内法との関係
12	外国人政策における国と地方自治体の連携
13	地方自治体の国際交流
14	外国人受け入れの現状と世論
15	まとめ

評価

前半終了時の小レポート(20%)と最終レポート(80%)で評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】授業の状況に合わせて適宜紹介。

科目名	グローバル化と生活		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

FS「生活と異文化」の前期科目 この科目のほか、フィールドスタディ「生活と異文化」を集中講義で履修し、後期に「地域生活と法政策」を履修することが必要

科目の概要

身の回りで起こっている、モノ、ヒト、カネ、情報などの「グローバル化」の実態を調べる。さらに、それによって、国内社会や国際社会がどのように変化したか、グローバル化の光と影の両面を探ってみる。ゲスト講師の講義、レポート作成、発表など、参加型の授業形式を行う。

学修目標

日々の生活におけるグローバル化に関する感性を高める。

内容

1	グローバル化とはなにか あなたの考えるグローバル化とは
2	食べ物のグローバル化1 日本の低い食糧自給率 『あぶない野菜』
3	食べ物のグローバル化2 『バナナ民衆交易の10年』 『エビの履歴書』 レポート課題
4	水のグローバル化、レポートの報告 『水は誰のものか』
5	衣生活におけるグローバル化 フェア・トレードとは何か
6	経済のグローバル化1: 多国籍企業(トヨタ、アメリカンファミリー、IBMなど) 通貨
7	経済のグローバル化2: 『すてられた人形: グローバル化とアジアの女性労働者』
8	政治のグローバル化: 国連安全保障理事会、EU、アメリカ、中国、ロシア
9	レポートの報告 宗教のグローバル化
10	労働のグローバル化 国際組織犯罪 人身売買、国際警察機構、国際条約
11	文化のグローバル化 『隣に生きる外国人』
12	人身取引に関する法律および 『人身取引トラフィッキング』 のビデオ視聴
13	外国人研修生の問題 地域の国際交流に関する報告
14	地域の国際交流・国際協力 富士見市国際交流センター理事長石井さんのお話
15	基本的な知識について試験およびフィールドスタディについて

評価

試験(50%)、課題レポート(30%)、出席カード・ワークシートの記入内容(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ピエトラ・リポリ著 『あなたのTシャツはどこから来たのか? 誰も書かなかったグローバル化の真実』 東洋経済新報社 2007年

高木郁郎 他 『グローバル化と政治のイノベーション』 ミネルヴァ書房、2003年 310.4/G

『多文化共生のジレンマ：グローバリゼーションのなかの日本』 加藤 秀俊 明石書店 2004

科目名	フィールドスタディ「男女共同参画社会」		
担当教員名	亀田 温子、大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 現代社会コース、フィールドスタディ(体験型演習)の選択必修科目(通年)

2 フィールドスタディは実際の社会の動きを理解するために、学外の様々な場に出かけ、現状をとらえ 考えることを基本とします。

「男女共同参画社会」では、現代社会における女性の状況をとらえると同時に、行政機関、民間セクター、NPO、女性グループなど様々な活動に参加し、制度作りや様々な事業が展開している実態をとらえ、進む現状を理解することをねらいとします。

内容

22年度は下記を実施。23年度についてはテーマによる変更あり。

1 男女共同参画関連施設見学

女性と仕事の未来館見学：働く女性のあゆみ展示など

2 子育て支援・父親に育児参加・イクメンプロジェクト

さんきゅーパパプロジェクト講演会に参加

主催：NPO法人 ファザーリング・ジャパン

3 自治体と民間企業における男女共同参画への取組を訪問

生活共同組合さいたまコープの子育て支援

埼玉県の子育て応援宣言企業

4 国立女性教育会館の「研究と実践の交流推進フォーラム」

のワークショップに参加

評価

課題レポート50点、フィールドでの学習参加30点、発表報告20点、合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

内閣府「男女共同参画白書」など、随時紹介する。

関連資料は配布する。

科目名	ライフコースと生活設計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民） / 現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

家族という小集団は、男女が結婚することで形成され、子どもの出生と成長によって拡大します。しかし、子どもが成人して自身の家族を形成するにしたがって縮小し、やがてはもとの夫婦二人になるという生活周期をもっています。家族にはこうした周期現象がみられることから、より長いスパンでの生活設計という考えが生まれました。ところが、個人の生き方が多様化するなかで、家族の生活周期と個人のライフコースとはどのように交錯しているのか、その世代変化と時代変化の考察が必要になってきました。本科目では、女性の自立とライフコース選択や、格差社会の進展にともなうライフコースの移行の遅れといった今日的な課題を分析的に論じるための基礎力を養います。

内容

1	ガイダンス
2	家族発達 1：ライフサイクルとは何か
3	家族発達 2：ライフサイクルの発達段階
4	家族発達 3：日本人のライフサイクルの変化
5	ライフコース 1：ライフコースとは何か
6	ライフコース 2：ライフコースと世代
7	ライフコース 3：ライフコースの変化
8	ライフコース 4：女性のライフコース
9	家族の発達課題 1：夫婦の役割関係
10	家族の発達課題 2：夫婦の勢力関係
11	家族の発達課題 3：子どもの社会化 1
12	家族の発達課題 4：子どもの社会化 2
13	家族の発達課題 5：老親扶養 1
14	家族の発達課題 6：老親扶養 2
15	総括

評価

授業時の課題提出（40%）と学期末のペーパーテスト（60%）で評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

岩上 真珠 『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣、2003年。

青木 幸弘、女性のライフコース研究会編 『ライフコース・マーケティング』日本経済新聞社、2008。

科目名	政策決定とジェンダー		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 現代社会コース フィールドスタディ「男女共同参画」の必修科目

2 男女共同参画社会づくりに向けて社会の政策がどのようにつくられ、それが実行されているか、地域、県、国、国際レベルでとらえ、日本の状況、世界の状況を知る。また演習とも関連させて、実際の事業がどのように展開しているかととらえる。

内容

1回 社会のルールは誰がつくったか

2 - 4回 女性の政治参画・参政権獲得の歴史

3 - 5回 1970年代以降 国際女性年の動向
国連女子差別撤廃条約の成立とその内容

7 - 9回 日本の制度改革とそれによる変化
男女雇用機会均等法の成立と法改正
国籍法改正、育児休業法、DV防止法

10 - 13回 家族・子育て支援関連の動き

14回 地域の女性センター、グループ・NPO活動
が動かしたこと

15回 女性の参画はどのように進んだか

評価

課題提出レポート60点、授業への参加度30点、出席態度10点で合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時にテーマごとに紹介する。

科目名	民法の基礎		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーション学科現代社会コースの学科専門科目として位置付けられている。

科目の概要

民法は個人の衣食住にかかわる基本的なルールであり、「市民の法」「市民の権利・義務」を理解する上で不可欠かつ最も重要な法律である。ビジネス関係の法律、消費者保護の法律、家族関係の法律など各種の法律は民法を基礎としている。この民法の基礎的知識の習得と、法的思考力の身につけることを目的とする。民法には、契約や不法行為を取り扱う債権法のほか、物権・担保物権、親族法・相続法が含まれるが、この科目ではとりわけ、家を借りる、洋服を買う、誕生日プレゼントをするといった身近な行為に関係の深い民法の債権法を中心に取扱う。

科目の目的

身近な「契約」という行為がどのような法的な意味内容をもつものかを中心に学び、民法・債権法の基本的な理解を図ることを目的とする。

内容

1	債権法のガイダンス及び契約の成立
2	契約の効力： 同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約
3	契約の解除： 解除の要件・効果、消費者保護とクーリングオフ
4	契約各論(1)： 贈与契約 - 意義・成立・効力・特種の贈与
5	契約各論(2)： 売買契約 - 意義・成立・効力
6	契約各論(3)： 売買契約 - 買戻しについて
7	契約各論(4)： 交換・消費貸借・使用貸借
8	契約各論(5)： 賃貸借契約の意義・期間・効力
9	契約各論(6)： 雇用・委任・その他の典型契約
10	契約以外の債権発生原因(1)： 事務管理・不当利得
11	契約以外の債権発生原因(2)： 不法行為
12	債権の効力： 強制執行・債務不履行・損害賠償・受領遅滞
13	多数当事者の債権関係： 連帯債務・保証債務
14	債権の消滅： 弁済・代物弁済・相殺他
15	総括

評価

提出物・受講態度(40点)、ペーパーテスト(60点)を、総合して評価します。100点満点中60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『スタートライン債権法』[第5版] 池田真朗（日本評論社）

【参考書】『デイリー六法』（三省堂） その他の六法でも可

科目名	消費者問題		
担当教員名	竹中 由香		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

いつの時代にも人が生活し、生きていくためには、さまざまな障害・問題があったが、消費者が受ける不利益・被害すなわち消費者問題は、個人的な問題ではなく資本主義経済機構に内在する問題である。

本講義は、最近の「食の安全」をはじめとする消費者問題の現状、また高度経済成長期に顕在化した消費者問題に遡り、その中から消費者問題とは何かを考える。

そして消費者問題の対応策としての消費者運動、消費者行政、消費者関係法による規制、消費者教育、事業者の消費者対応について検討し考察する。

また消費生活アドバイザー資格取得も視野に入れ、消費者問題領域の理解を深めることもねらいとする。

内容

1	身の回りの消費者問題
2	消費者問題の変遷(VTR)
3	消費者・消費者被害・消費者問題の概念
4	消費者問題と消費者運動
5	消費者問題と消費者行政
6	消費者問題を解決するための方策
7	・安全な生活を確保するための方策
8	・安全な生活を確保するための具体例
9	・適正な契約関係を確保するための方策
10	・適正な契約関係を確保するための具体例
11	・被害救済の意義と救済システム
12	・消費者教育の必要性、意義、方法
13	・商品テストの意義と活用法
14	・事業者の消費者対応の理念
15	・事業者の消費者対応-問い合わせ調査とまとめ

評価

期末テスト7割、授業参加態度や小レポート等を3割とし、6割以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】鈴木深雪『消費者政策 消費生活論』尚学社 365/S

科目名	生活と議会政治		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

以下を身につけることをねらいとする。

1.政治過程に関する知識を身につける

私達の将来を決める政治的決定や、決定そのものを決める決定(ルール)、さまざまな状況、世界とのつながり、人のかかわりから決定が生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼び、選挙などを通してこの決定に関わる私たちはその知識を身につける必要がある。

2.ものの見方を学ぶ

知識をおぼえるだけでは充分でない。バラバラの知識を

おぼえるだけでなくそれをどう見るかという「ものの見方」が必要となってくる。

3.政治についてデータ・論理に基づいた議論ができるようにする

どの「ものの見方」が正しいかを考えるためには、裏打ちする数字や事実などのデータ、他のものの見方との比較による一つの「論」を作る必要がある。

内容

1	ガイダンス
2	政治制度 - 議院内閣制
3	立法過程 - 予算と法律
4	立法過程 - 政策決定過程
5	立法過程 - ねじれ国会
6	政策決定システム - 議院内閣制
7	政策決定システム - 連立政権
8	前半まとめ
9	財政赤字と諸問題 - 福祉国家論と小さな政府
10	財政赤字と諸問題 - 財政危機と社会保障
11	現代日本政治の諸問題 - 2009年衆議院選挙と政権交代、鳩山内閣、民主党マニフェスト
12	現代日本政治の諸問題 - 2010年参議院選挙とねじれ国会、菅内閣
13	現代日本政治の諸問題
14	現代日本政治の諸問題
15	後半まとめ

評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

堀江湛 『政治学・行政学の基礎知識 第2 版』一藝社

岩井奉信 『立法過程』東京大学出版会

科目名	生活と行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

行政の基礎的知識と行政がどのような役割を果たしているか、どうあるべきかなどを探る。

制度だけを見るのではなく時の内閣の動きなどとあわせ、今の時代をとらえたい。

ニュースなどで見る時事問題のキーワードが理解できるよう取り上げ、授業内容も重要な時事問題に対応したものに再構成したい。ビデオも取り入れていく。

内容

1	ガイダンス
2	行政とは何か - 行政・司法・立法、公(政府)と私(民間)
3	行政の制度 - 省庁・自治体、法律・条例・政令・行政指導
4	予算形成過程 - 官僚と予算
5	予算形成過程 - 日本の予算
6	日本の財政・税制 - 赤字財政、消費税増税問題
7	前半まとめ
8	地方自治 - 地方分権、地方財政、三位一体の改革
9	少子高齢化への対応 - 子育て支援、社会福祉、年金問題
10	行政改革 - 公務員制度改革、規制緩和、「脱官僚政治」
11	民主党政権の諸政策と行政 - 子ども手当、農家個別所得補償、暫定税率廃止
12	世界の行政 - アメリカの大統領制、イギリスの行政、発展途上国の行政
13	環境問題 - 地球温暖化対策、日本の温室効果ガス削減目標25%、環境税
14	雇用問題 - 景気と雇用、雇用行政と非正規労働
15	後半まとめ

評価

小試験(70%)、平常点等(30%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

堀江湛「政治学・行政学の基礎知識 第2版」一藝社 311/S

西尾勝「行政学」有斐閣 317.1/N

高橋洋一「さらば財務省」講談社

科目名	生活と食文化		
担当教員名	沢野 勉		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

世界各地には、さまざまな食べものがあり、それぞれ食習慣も異なっている。本講では食を文化の視点で捉えて、各地の食べもの、食習慣、食作法などを比較・考察する。食生活は気候・風土、生産条件、経済などの影響を受けるのは当然だが、これは同時に、その地域の人びとの自然観、宗教、文学や芸術の世界とも深く結びついている。食と人間と社会の関係を広い視野で見つめて、いろいろなジャンルの話題を探して、食の課題を考えていくのが本講のねらいである。

内容

1. 食文化人類学と学習の意義；文化と文明 / culture、agriculture、viticulture / 文化人類学の諸分野と食文化人類学の位置づけ
2. 風土と食物；アジアモンスーン地帯の特性 / 和辻哲郎『風土』の問題提起 / 「湿」の文化と「乾」の文化 / わび・さびの自然観 / 「水に流す」と「湯水のように」 / 生在蘇州、住在杭州、衣在上海、食在広州、死在柳州 / ベトナムのフランスパン - 植民地支配と食
3. 食の思想と肉・魚；森の民と豚 - ドイツでのヴルストの発達 / グリム童話にみる食 / 羊の家畜化と遊牧民の生活 / 日本人と魚食 / 宗教と食物禁忌 / イスラム教の豚とヒンズー教の牛 / 仏教と食
4. 日本人と米；宮澤賢治『雨ニモマケズ』に見る米 / 粉食と粉食と食の規制 / しゃもじ権と女性の地位 / 麹文化の発展と微生物工業
5. 日本における東西の食文化；サケ圏とブリ圏 / 食塩摂取の地域差 / 土用のうなぎと牛肉 / ラーメンのだしの地域差 / 丸餅と切餅 / 納豆と豆腐
6. 食の道具と食作法；箸食と手食 / パスタとフォーク / 日本の食卓での匙の欠落 / 食器の個用と共用 / 箱膳の知恵 / 食卓でのDIY
7. 食のことばと表現；食べものの雅称と忌みことば / ことわざにみる食生活の知恵 / ネーミング考

評価

レポートにより評価。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは使用せず、主としてノートによる。参考書は随時紹介する。関係用語のプリント配布。

科目名	地球とエコシステム		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コース専門科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作り直すという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム(生態系)、という点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な地球環境保護活動について検討する。さらに、エコシステムに注目する行動の基礎となった環境倫理学の視点や、ディープ・エコロジーといった思想を紹介し、地球の生態系を重視する環境保護政策のあり方について考えてみたい。

環境問題の多様性を理解し、「環境学」の基礎を学ぶ。

環境問題を広く理解するためには、FS 授業科目「生活環境と経済開発」も履修することが望ましい。

内容

講義で扱うテーマは下記のとおり。

1. 地球環境問題をどう捉えるか
2. 環境を考える4つの視点(1): 市場優先派と制度重視派
3. 環境を考える4つの視点(2): 生態系優先派と緑の社会正義派
4. 環境保護対策の考え方
5. 国際協力体制の始まり
6. 国際協力体制の発展
7. 環境問題における国際対立
8. 環境問題と経済格差
9. 環境問題とジェンダー
10. 環境問題と民主主義
11. 環境NGO
12. 環境倫理学
13. 生態系を守る環境保護政策
14. 環境学への視座
15. まとめ

評価

レポート(60%)、試験(40%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】瀬戸昌之 他 『文科系のための環境論・入門』有斐閣アルマ 1998 年

【推薦書】澤昭裕・関総一郎 編著 『地球温暖化問題の再検証』 東洋経済新報社 2004 年 451.35/C

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』 明石書店 2003 年

科目名	生活とボランティア活動		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を基本としてとらえる。他の科目として「市民活動論」と関連性がある。講義は、ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。学修目標は、1. ボランティアについて理解する。2. ボランティアコーディネーションについて理解する。3. ボランティアコーディネーターについて理解する。

内容

1	なぜ人はボランティアをするのか
2	ボランティアについて
3	ボランティア活動の意味
4	ボランティア活動の歴史
5	ボランティアのとらえ方
6	ボランティア活動の課題
7	コーディネーションの必要性
8	コーディネーション機能について
9	ボランティアコーディネーションについて
10	ボランティアコーディネーション事例の検証
11	ボランティアコーディネーターとは
12	ボランティアコーディネーションの視点について
13	ボランティアコーディネーターの価値とは
14	ボランティアコーディネーターの役割について
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)と、学修目標に基づくペーパーテスト(60点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房

科目名	生活とコミュニティ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コミュニティは、都市や農村の地域社会を指すとともに、高度経済成長後の日本社会の社会目標として1970年代に提起された行政用語でもある。近代化・産業化・都市化によって地域社会は、伝統的なコミュニティが卓越する社会から、アソシエーションが卓越する社会へと変貌した。しかし、地域社会における祭礼や伝統文化の継承、町内会組織などの住民による文化活動、環境保全や福祉活動への取り組みなどにおいて、コミュニティ機能の重要性は増している。地域社会を場として展開されている今日的課題を実際の事例に照らして理解する力を習得する。

内容

1	コミュニティとは何か
2	都市と農村(1)
3	都市と農村(2)
4	市町村合併(1)
5	市町村合併(2)
6	混住化と地方自治(1)
7	混住化と地方自治(2)
8	都市問題
9	都市農村交流(1)
10	都市農村交流(2)
11	環境保全とコミュニティ(1)
12	環境保全とコミュニティ(2)
13	地域福祉とボランティア(1)
14	地域福祉とボランティア(2)
15	コミュニティ再生へむけて

評価

授業時の課題(40%)と学期末のレポート(60%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著(2008)『地方からの社会学』学文社。

科目名	結婚と家族		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本社会は、少子高齢化、未婚晩婚化といった、人口変動によって大きな変貌を余儀なくさせられています。こうした人口変動は、結婚するかしないか、子どもを持つか持たないかといった、家族形成の規準が変わってきていることによって生じます。

日本人の家族形成のあり方が、今どのように変化しているのか、社会統計や社会調査のデータをもとに現象を客観的に把握し、解釈する力を身につけます。結婚と家族に関する社会統計や社会調査のデータにどのようなものがあるのか、それらのデータがどのような理論枠組みに基づいて収集されているか学びます。次いで、それらのデータがどのように解釈され、政策提言の場でどのように活用されているか学びます。

内容

1	ガイダンス
2	家族1：家族の定義
3	家族2：家族と世帯
4	家族3：核家族
5	家族4：家族の種類と分類
6	家族5：家族構成の変化
7	家族6：家族規模の変化
8	結婚1：異性交際
9	結婚2：配偶者選択
10	結婚3：結婚の意味と機能
11	結婚4：結婚の分類
12	結婚5：結婚の変化
13	結婚6：離婚
14	結婚7：再婚
15	全体のまとめ

評価

授業時の課題提出(30%)と学期末のペーパーテスト(70%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

森岡清美・望月 崇『新しい家族社会学』(四訂版)培風館、1997年。

野々山久也(編)『論点ハンドブック家族社会学』世界思想社、2009年。

佐藤博樹、永井暁子、三輪 哲(編)『結婚の壁 - 非婚・晩婚の構造 - 』朝日文庫、2010年。

科目名	家族と法律		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

民法家族法(親族・相続)の基礎を学びます。現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や人工授精で子どもをもつことには、生物学上および法律上の親子の問題が生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。この授業では、家族法の基礎知識の取得と、現代の家族問題を法制度の観点から理解深めることを目的としています。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	家族法の現代的問題
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 相続人と相続財産
12	相続 法定相続
13	遺言・遺留分 民法上の制度
14	遺言・遺留分 制度と実態
15	総括 ~女性と家族と法~

評価

提出物・受講態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価します。
100点満点中60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『家族の法[第3版]』 利谷信義 (有斐閣)

【参考図書】『デイレール六法』(三省堂) その他の六法も可

科目名	キャリア開発と生活プラン		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 社会情報学部現代社会コースの専門科目(2年生以上対象)

2 長期的に仕事とかかわり職業生活を送る女性たちに注目し、結婚や家庭生活と職業生活がどのように変わってきたかをとらえ、生活と職業の変化から自身の将来に向かってのキャリア・ライフプランを作成する。

また、具体的に女性の開発した商品や起業した会社の事例、女性が活躍できる企業を取り上げ、現代の女性たちが仕事と生活の両立をどのようにすすめているかをとらえる。

新聞記事や雑誌、ビデオの利用など、またグループワークなどで多様な学習方法を取り入れる。

内容

1 - 3回 活躍する女性をとらえる

新聞・雑誌記事から女性と仕事の関わりをとらえる

記事をもとにグループワーク、記事をもとにしたレポートの作成

4回 女性たちの進化史

働く女性のあゆみと変化

5 - 7回 ライフサイクルの変化と仕事・生活

20代からはじまる働き方の選択

8 - 10回 仕事と生活の両立を目指す制度を

地域にある子育て支援施設をとらえる

家庭生活・男女の役割の変化

11 - 12回 商品開発と女性の活躍 ・人に注目

13 - 14回 女性の活躍する企業とは・企業に注目

ウーマノミクスの動き

15回 私のライフキャリアプランに向けて

評価

課題レポート60点、授業への参加度30点、報告10点の合計100点。
60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介する。

科目名	ジェンダーと開発		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は現代社会コースの専門科目

科目の概要

海外の女性の社会的、経済的、政治的状況について学ぶ。

国家発展や開発援助をする際、男性と女性の関係性を無視して行くと成果が上がらない。そのため、男女の関係性に注目しながら開発を考えるジェンダーと開発という考え方が主流になった。ジェンダーと開発を進めるためには、各国における女性の状況をまず知ることが重要である。そのため、各国における女性の状況を労働、教育、暴力、政治参加などの様々な領域でビデオなどによりビジュアルに学んでいく。

学修目標

海外の女性の状況を学ぶことで、日本の女性の社会的・政治的・経済的状況を把握し、日本女性の一人として今後何をすればよいか考える機会となることが目標

内容

1	ジェンダーと開発を学ぶ目的 国際的な女性の地位の比較、女性の地位向上のための課題
2	国際的な政治参加の状況 女性がなぜ政策決定に少ないか、女性が政治にでるとどう変わるか？
3	女性の人身取引1 【買われ・売られて】課題1の提出
4	課題1 新聞切抜きの報告 女性の人身取引2【売買される女性たち】
5	世界各地の宗教、文化、風習と女性【女性に対する暴力：文化、風習】
6	ゲスト講師 川崎けい子さんの講義と質疑 課題2の提出
7	課題2 切り抜きの報告 アフガニスタン、イスラム圏の女性について
8	女性に対する暴力 DV、女性差別撤廃条約、女性に対する暴力撤廃デー、FGM（ビデオ）
9	女性の識字・教育を考える：男女、都市農村別、宗教による違い【ミーナのえがお】
10	女性と経済：女性・男性の働き方 【女性・男性の働き方】
11	女性と貧困 【貧困の女性化】母子家庭の貧困 女性高齢者の貧困
12	国連安保理決議1325 紛争解決と平和構築における女性【平和を作る女性たち】
13	女性の地位を測る指標、ジェンダー統計 【自立を目指して】
14	課題の報告 女性と環境、女兒、【女兒・子どもと未来のために】
15	まとめ

評価

試験(60%)、課題提出物の内容(20%)、ワークシートの内容など平常点(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書：ジョニー・シーガー著、原民子、木村くに子訳『地図で見る世界の女性』明石書店 2005

落合美恵子、山根真理、宮坂靖子『アジアの家族とジェンダー』勁草書房、2007

参考文献：雑誌 季刊『私たちの21世紀』アジア女性資料センター

科目名	北アメリカとヨーロッパ地域研究概論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1・2年生対象の選択必修科目で、国際社会の基礎を学ぶ。

講義の対象となるのは、一般に「西洋」と言われる北米欧地域だが、その地域内でも違いがあり、国々の関係も様々である。最近では、先進国共通の国内社会問題や国際問題への対応で、アメリカとヨーロッパの差が目立つことが多い。授業では、アメリカ、ヨーロッパ主要国の歴史、社会構造、文化に触れながら、国々の間に見られる類似点、差異について説明し、さらに、これら諸国の国際社会における役割についても考える。それぞれの地域の新聞、テレビ、ネットなどのリアルタイムの情報を紹介しながら、説明する。

国際理解の基礎知識を身につける。

内容

講義では、下記のテーマについて、その時々情報を交えながら論じていく。

1. 地域研究方法論
2. アメリカの政治社会(1): 歴史的背景
3. アメリカの政治社会(2): 文化的背景
4. アメリカの政治社会(3): 政治制度
5. アメリカの政治社会(4): 選挙
6. ヨーロッパ主要国の政治社会(1): イギリス
7. ヨーロッパ主要国の政治社会(2): フランス
8. ヨーロッパ主要国の政治社会(3): ドイツ
9. ヨーロッパ統合の歴史(1): EC
10. ヨーロッパ統合の歴史(2): EU
11. ミドルパワー諸国の政治社会: カナダ等
12. 新しいヨーロッパ諸国: 旧東欧など
13. その他の地域統合への動き
14. グローバリゼーションの影
15. まとめ

評価

レポート(40%)、試験(60%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】河合秀和 『比較政治入門・改訂版』 有斐閣アルマ、2000年 319.53/N

【推薦書】中西輝政 『アメリカ外交の魂 - 帝国の理念と本能』 集英社、2005年 319.53/N

堤未果 『ルポ 貧困大国アメリカ』 岩波新書、2008年

宮島喬 『ヨーロッパ市民の誕生』 岩波新書、2004年

渡邊啓貴 『ヨーロッパ国際関係史』 有斐閣アルマ、2008年

科目名	日本とアジアの地域研究概論		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

21世紀に入り、アジアは世界経済の成長センターとしての位置づけが一層明確になった。同時に朝鮮半島の軍事対立と驚異的な経済成長に裏打ちされた中国の存在感は冷戦終結後の国際政治の大きな焦点となっている。アジアに位置する日本は、そうしたアジア各国との緊密な関係強化を抜きにして、国家レベルでも個々の企業レベルでもその将来像を描くことすら出来なくなった。

この授業はアジアを次の3つに大別し、それぞれ19世紀末以降の歴史と現状を分析・検証し、近未来について考えていくものである。なお、この授業は時事解説の側面も持つので、受講生は日々の新聞やテレビの報道に強い関心を持つことを求める。

1) 中国

アヘン戦争から日清・日露戦争、日中戦争から国共内戦、中華人民共和国の建国と大躍進政策の失敗、文化大革命から改革開放経済体制、世界の工場としての現在まで

2) 朝鮮半島

韓国併合(朝鮮半島の植民地化)と日本敗戦、大韓民国/朝鮮民主主義人民共和国の建国と朝鮮戦争、南北対立と北朝鮮核武装の現在まで

3) 東南アジア

東西冷戦下のドミノ理論とベトナム戦争、開発独裁と地域経済、ASEANとしての地域協力機構の現在まで

内容

- 1) ガイダンス～アジアとは?、“アジアは一つ”か?、アジアの世紀は本当か?
- 2) 欧米列強のアジア進出と日本～大航海時代、アジア植民地化、アヘン戦争
- 3) 明治新政府の対アジア外交～日清露3国の思惑と日清・日露戦争、韓国併合
- 4) 日本のアジア侵略～日中戦争からアジア太平洋戦争、満州国建国と中国残留孤児問題
- 5) 日本敗戦と靖国神社～靖国神社問題と歴史教科書問題
- 6) 中華人民共和国建国～大躍進から文化大革命、中ソ論争、台湾問題(中国代表権問題)
- 7) 朝鮮戦争と日本～日本の“再軍備”と自衛隊、自衛隊任務の変遷
- 8) 東西冷戦とドミノ理論～マッカーズムと中国封じ込め政策、米ソ英仏中の核開発競争とNPT体制
- 9) ベトナム戦争～米ソ代理戦争、日米安保条約/日米同盟の“完成”
- 10) 開発独裁～民主主義より“まずは経済建設”路線、日本のODA戦略
- 11) 米中接近～中ソ対立/ベトナム戦争/ニクソンショックと日中国交正常化
- 12) 中国改革開放経済体制へ～鄧小平路線/世界の工場/光と影、チャイニーズ・ドリーム、G20時代
- 13) 北朝鮮問題～北朝鮮の核武装と東アジアの安全保障、北朝鮮世襲体制の行方、日朝国交正常化問題
- 14) 東アジア共同体構想と障害～尖閣/竹島問題、日中韓歴史認識問題、日米/米中/日中相関関係
- 15) まとめ

評価

ミニテスト（受講生の理解度を見るために、毎回または随時10分程度をかけて行う＝一種のリアクションペーパー）＋期末試験（またはレポート）で総合評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使わない。資料は随時配布する。参考図書は授業中に紹介する。

科目名	中国・華僑社会の人と文化		
担当教員名	山本 賢二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

国際コミュニケーションの中で、中国の発言の比重は以前にも増して大きなものになっている。さらに、日中関係を考えたとき、中国と世界的な広がりをもつ華僑、華人社会を知ることが我々にとって不可欠といえよう。

そのための一歩が中国文化を知ることである。中国の文化は権力によってつくられた文化、文人によってつくられた文化、民衆によってつくられた文化の三層からなる。本講義は中国という大地で数千年にわたる人々の営み(衣・食・住・行)によって作り出されたところの中国人、華僑、華人、華裔、新移民の共有する基層文化を中心に、中国・華僑社会の人と文化を考え、中国理解に接近しようとするものである。

受講者は教科書、推薦書などを熟読し授業に臨むことが求められる。また、中国に関係する情報に関心を持ち、メディアから関係情報を得よう努めること。

内容

1. 世界の中の中国イメージ・日本人の中国イメージ
2. 漢族(炎黄子孫・華夏民族)とは
3. 世界の華僑・華人・華裔・新移民
4. 漢字文化
5. 漢語(普通話・国語・華語)
6. 伝統文化のメディアとしての太極拳
7. 陰陽思考
8. 春節
9. 中国料理
10. 茶芸
11. 象棋
12. 人権観と世界輿論
13. 中国の海外統一戦線
14. 黄禍論・中国脅威論
15. まとめ

評価

問題意識をもって授業に臨み、質問に答えたり、積極的に発言などをする 授業参与度 50%

授業内容を踏まえた「日中のコミュニケーションギャップを解消するための提言」 レポート 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必読書 竹内実著 『中国という世界 - 人・風土・近代』 岩波新書

その他、授業中に紹介する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

多くの学生には、自らの就職活動にこのインターンシップを取り入れ、職業選択や将来設計について考える機会ととらえて積極的に参加してほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

ガイダンス：5月上旬に実施されるガイダンスで詳細説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施：夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実働60時間以上）研修を行う。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：キャリアセンターが受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例（2010年度）

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、荒川区役所、あさ出版、NHK出版、オンワード樫山、ケイ・テクノ、ザ・ライトスタッフオフィス、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、蓼科情報、埼玉新聞社、丸正飯塚、リコージャパン

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート（40点）、受け入れ先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

多くの学生には、自らの就職活動にこのインターンシップを取り入れ、職業選択や将来設計について考える機会ととらえて積極的に参加してほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

ガイダンス：5月上旬に実施されるガイダンスで詳細説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施：夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実働60時間以上）研修を行う。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：キャリアセンターが受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例（2010年度）

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、荒川区役所、あさ出版、NHK出版、オンワード樫山、ケイ・テクノ、ザ・ライトスタッフオフィス、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、蓼科情報、埼玉新聞社、丸正飯塚、リコージャパン

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート（40点）、受け入れ先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	角田 真二、亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など
2. 非言語分野の学習
 - 年齢算、仕事算、旅人算、流水算
 - グラフ・領域、資料解釈、空間把握
 - 順列組み合わせ、確率、n進法
 - 運動力学など
3. 言語分野の学習
 - 同意語、反対語、ことわざ・慣用句
 - 包含関係、行為関係、原料関係、用途関係
 - 複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

受講態度(50点)、試験(50点)をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	亀田 温子、泉 直子、角田 真二、松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

女性の人生をより豊かなものにするためには、職業を持つことが欠かせない。さまざまな分野で活躍する職業人の実例に触れながら、仕事をする事で何がえられるのか、自分の興味や能力を仕事で活かすにはどうしたらよいか考える。これによって、大学卒業後、スムーズに職業生活をスタートさせるための基盤をつくる。

「仕事が女性の人生をより豊かにする」ということを、3回のワークショップと10名の職業人の実例を通じて認識する。まず、1回目のワークショップでキャリア形成の基本となる考え方(興味、能力、価値観にそった仕事選びが充実した職業人生につながる)と各自が抱いている仕事に対するイメージを確認する。次いで、5名の職業人からそれぞれの仕事を持つ魅力について学び、2回目のワークショップで各自の興味や能力が活かせる仕事について考える。さらに、5名の職業人から自分にとって仕事とは何か、職業観・仕事観を学び、3回目のワークショップで職業生活からえられるものは何か考察する。そして最後に、本授業を通じて各自の仕事に対するイメージがどう変化したか確認する。

内容

1	ガイダンス(大卒女子の労働の実情)
2	ワークショップ1(仕事に対する自分のイメージを認識する)
3	野本範子氏(リコージャパン(株))「女性経営職の楽しさと永年勤続の魅力」
4	遣田重彦氏(LVMH)「Employabilityとは？」
5	畠山一郎氏ほか(広告社)「コミュニケーションをデザインする仕事」
6	好本 恵氏(フリーアナウンサー)「アナウンサーと放送～その仕事の醍醐味」
7	りそな銀行員 銀行業務と女性の働き方
8	ワークショップ2(自分の能力や興味について考える)
9	菊田あや子氏(フリーアナウンサー)「仕事で人生を切り開く楽しさと充実感教えます」
10	石渡弘行氏(アイルピーソリューションズ)「『武器』としてのコミュニケーションスキル」
11	富士通社員 SEなど情報系の仕事
12	大西由華氏(ヒューマンスキル講師)「コミュニケーション力は一生物のスキル」
13	森 美香氏(NPOエンジェル・ケア・ハート)「起業をとおして自己表現」
14	ワークショップ3(仕事をする事で何がえられるのか)
15	まとめ(総括討論)

評価

講師10名ごとに提出するチェックリスト(60点)、ワークショップ3回の課題(30点)、および最終回の全体レポート(10点)の計100点で総合評価する。合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に随時紹介する。

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディア業界は今、各メディアが提供する情報の濃密度や信頼性が問われ、生き残りをかけた競争がメディア間で激しくなっている。一方、情報の受け手である我々現代人は、超情報化社会を生き抜くためにも、マスメディア業界の現実(実態)を知り、いわゆるメディアリテラシーを身につける必要に迫られている。この意味で、科目の性格はマスメディア入門といった性格を持つ。

入門する一つの道は、新聞、放送、出版、インターネット、広告等々の各業界が今日の社会でどのように機能しているかを知ることから始まる。また、特にマスメディア業界は人的資源が財産である。いかに可能性を秘めた有能な人材をそろえるかが業界での勝ち負け、生き残りを左右する。この意味でマスメディア業界がどのような人材を求めているのか、その内部事情を知ることが不可欠である。

授業は、マスメディア業界への就職最前線事情に詳しい専門家を中心にして、業界の現状と将来に向けた最新情報を提供する「傾向と対策」の場であり、マスメディア業界への就職活動を支援するものである。受講生は本科目をただ受講するのではなく、自分の日常生活において積極的に新聞、雑誌を読み、様々なテレビ番組を視聴することを半ば習慣化することが不可欠である

内容

15回の授業内容は以下のとおりである。

- 1) ガイダンス・・・マスコミ業界の概要(新聞、放送、出版を中心に)
- 2) マスコミ業界の心得・・・メディア人としての義務と使命感
- 3) 報道(新聞)の変遷・・・新聞創刊期から現代までの歴史的諸問題
- 4) 報道(出版)の変遷・・・週刊誌創刊期からクラス系雑誌誕生まで
- 5) 報道(放送)の変遷・・・放送事業局開局から地デジへの展開と発展
- 6) 女性誌ファッション・・・ローティーン誌からヤング誌トレンド考
- 7) 女性誌クラス系分析・・・キャリア誌からシニア実用誌トレンド考
- 8) 広告媒体戦略とIT・・・ライブ感と市場マーケティング感覚養成
- 9) 芸能音楽業界の興亡・・・欧米と日本のショービジネス対比と連動
- 10) 書籍文藝とコミック・・・著作権とコンテンツビジネスの世界発信
- 11) マスコミ前期模擬試験・・・原稿&口頭試問TEST
- 12) 自己PRとES対策・・・自分史を具体的に文字と五感で表現する
- 13) 時事SPI筆記対策・・・新聞・放送・雑誌各媒体の相違と着眼点
- 14) 面接試験の最新動向・・・入社試験の最新動向と私服面接重点対策
- 15) マスコミ前期模擬試験・・・筆記&口頭試問TEST

評価

試験60点 + 授業中の発表40点 = 100点 60点以上が合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書、参考情報は随時、授業中に紹介する。

注意：本授業は、新聞・出版（書籍/雑誌）・放送（テレビ/ラジオ/番組制作会社）・インターネット・映画・音楽・広告など、いわゆるマスコミ業界への進出（=就職）を本気で目指している学生を対象に行うものである。マスコミの就職試験を受けることを（まったく）考えていない学生は受講対象とはしないので留意すること。

科目名	原典講読		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年ゼミの前期科目

科目の概要

テーマは「ワークライフバランスをめざす」

21世紀の日本社会は、女性の時代と言われている。そのため、これまでのような「男はしごと、女は家庭」という性別役割分担ではなく、一人一人の男女が仕事も子育ても楽しめるワークライフバランスが可能な社会づくりが急務となっている。とりわけ、日本社会は少子化が急激に進み、女性が仕事だけでなく、子育てもできるような社会のシステム作りが急務となっている。

学修目標

橋本ゼミでは、ワークライフバランスについて研究、将来の自分の人生設計をすることに加えて、社会に出て通用する基本的な知恵と知識・技術を持ち、自立した女性として育つことを目標とする。毎週1回のゼミだけでなく、学外活動、ゼミ合宿、学園祭、ゼミ論作成、卒論作成などのゼミ活動を通して充実した大学時代とする。

内容

以下のような内容を前期の15週及び夏休みに行う

- 1.ワークライフバランスに関する国際的な動向
- 2.ワークライフバランスに関する基本的な文献購読
- 3.文献・情報の探し方
- 4.ゼミ論の書き方について
- 5.論文の評価法
- 6.ワークライフバランスなどに関するテーマについてデベイトの練習
- 7.テーマの設定方法、
- 8.裁判・国会の傍聴、国際セミナーへの参加など

夏休み合宿(国立女性教育会館)

- 1.資料・データの検索
- 2.資料の読み取り

評価

ゼミでの発表内容(20%)、ゼミでの議論への貢献(20%)、ゼミ論の内容(60%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：山口一男、樋口義雄『論争 日本のワークライフバランス』日本経済新聞社 2008

参考書：『男たちのワーク・ライフ・バランス』 ヒューマンルネッサンス研究所 2008

それ以外にも教員が授業のつど、紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 3年次学習の必修科目

2 ねらい・目標

演習 (3年前期)では、女性の職業進出と企業社会の変化にかかわることをテーマに、基礎文献を読み、発表し、基礎力形成を行う。

この学習を基本に、後期には卒論のテーマ設定につなげる。

内容

1回 オリエンテーション : 3・4年時のゼミ活動について

卒業研究に向けての学習方法

学習課題、グループ学習について

2回 ゼミの学習方法: レジюме作成、発表方法、議論について

3 - 5回 基本テキスト購読 ・

発表報告、それに基づく意見交換、議論

6 - 8回 新聞、雑誌記事検索など情報収集

9 - 10回 関連テーマのデータ収集、文献リスト作成

11 - 13回 基本テキスト購読

14回 基本学習にもとづく報告・プレゼン

15回 まとめ

評価

購読報告・資料作成60点、討議への参加30点、受講態度10点により 合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時テーマごとに紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次演習として、卒業論文執筆の準備を行う。

この演習では、環境問題と国際社会の両方、あるいは、どちらか一方に関連したテーマを取り上げる。グローバル化が進む中、身近な生活環境問題も地球環境問題との関係抜きでは議論できず、国際社会の出来事と日本国内の動きも密接な関係を持つようになってきた。どちらに関連するテーマでも、地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会レベルの問題にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

テーマ設定と同時に、問題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本について学ぶ。

内容

第1回～第5回：基本的文献についての討論

第6回～第10回：参考文献、情報の収集方法

第11回～第13回：論文のまとめ方(ゼミ・レポート執筆)

第14回：ゼミ・レポート提出

第15回：レポート講評

評価

発表、討論への参加(30%)、レポート(70%)で総合的に評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】三浦栄光『国際関係のなかの環境問題』有信堂 2004年 519.1/K

【参考書】大澤真幸、姜尚中(編)『ナショナリズム論・入門』有斐閣アルマ、2009年

加藤陽子 『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学の研究法を習得する。この演習 では、家族社会学の研究領域を広く学び、演習 に向けて、参加学生の自らの関心領域を明らかにする。

内容

社会学の実証的な研究論文を読み込み、その内容についてディスカッションすることで、各自の卒業研究のテーマを模索する。毎時間テキストの一章分を取り上げ、数人のレポーターが内容を報告し、参考文献に照らしてコメントする。レポーター以外の者は問題点を指摘し、討論に参加する。なお、テキストは参加学生の問題関心にもとづいて決める。

また、夏季休暇中、合宿にて視察研修を実施する。視察研修内容は、参加学生自ら企画する。これまでに実施した事例には、韓国ソウル市内にて東国大学日本語専攻女子学生との交流、沖縄の伝統文化とリゾート開発、飛騨高山合掌集落における大家族制、北海道における移住促進事業、横浜市のまちづくりとボランティア活動などがある。

評価

授業中の発表や討議(50%)と学期末のレポート(50%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年。

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会のいろいろな問題を考えていくには様々な視点と方法がある。この授業では具体的な対象をデータや論理によって判断していく力を身につけることをねらいとしたい。たとえば、政府の政策の目的は何であり、それに対しどのように具体的政策が取られ、どのような結果・効果を生じているか、それは適切なのか、など。

内容

- ・現在起こっている諸問題の理解 - 資料などを提示しそれをもとに検討する、自分で調べまとめ発表する、議論の仕方などを勉強する。
- ・ゼミ論 - 自分でテーマを設定しレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。その中から文章を作成していく。
- ・時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ディベート - 効果的な議論の仕方を学ぶ。

評価

平常点(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

増田悦佐「格差社会論はウソである」PHP研究所

茂木秀明「ザ・ディベート」ちくま新書

科目名	演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年ゼミの後期科目

科目の概要

テーマは「ワークライフバランスをめざす」

21世紀の日本社会は、女性の時代と言われている。そのため、これまでのような「男はしごと、女は家庭」という性別役割分担ではなく、一人一人の男女が仕事も子育ても楽しめるワークライフバランスが可能な社会づくりが急務となっている。とりわけ、日本社会は少子化が急激に進み、女性が仕事だけでなく、子育てもできるような社会のシステム作りが急務となっている。

後期はこのテーマを含む様々なテーマに関する図書資料を読み、場合によったら調査をしてゼミ論をまとめる。

学修目標

橋本ゼミでは、ワークライフバランスについて研究、将来の自分の人生設計をすることに加えて、社会に出て通用する基本的な知恵と知識・技術を持ち、自立した女性として育つことを目標とする。毎週1回のゼミだけでなく、学外活動、ゼミ合宿、学園祭、ゼミ論作成、卒論作成などのゼミ活動を通して充実した大学時代とする。3年後期は、ゼミ論をまとめることで、文献分析、論文の書き方など習得する。

内容

夏休みゼミ合宿(国立女性教育会館または江ノ島)

- 1.資料・データの検索
- 2.資料の読み取り
- 3.ゼミ論テーマの決定

後期 ゼミ合宿の成果を踏まえ、以下を15週で行う

- 1.調査等によるデータ収集が必要な場合は調査の実施
- 2.開発途上国、特にネパールの女性教育について
- 3.第1次章稿のまとめ・パワーポイントによる発表(一回3人)・討論・講評
- 4.第2次章稿のまとめ・発表(同上)
- 5.最終論文の作成・提出(15000-20000字 図表等も含む)

学園祭でのイベント「国際協カラーメン」店 企画・実施 女性起業の実地体験。売り上げの一部をネパール女性教育協会に寄付して、ネパールの師範学校在学女子学生の奨学金の一部とする。志木市など地域の男女共同参画行政との連携事業の実施

評価

ゼミでの発表内容(20%)、ゼミでの議論への貢献(20%)、ゼミ論の内容(60%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：山口一男、樋口義雄『論争 日本のワークライフバランス』日本経済新聞社 2008

参考書：『男たちのワーク・ライフ・バランス』 ヒューマンルネッサンス研究所 2008

その他、学生のゼミ論のテーマに応じそのつど提示する。

科目名	演習		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 3年時の必修科目

- 2 ・前期の演習 の基礎学習をもとに、各自関心をもつテーマを設定し、社会事象をとらえる方法について学ぶ。
- ・卒論作成に向けて、テーマ設定を行い、関連資料の収集を行う。
- ・試論として卒論にむけたゼミ論レポートを作成。

内容

1回：前期の「演習」を振り返る。

2 - 3回 テーマ構想の発表、それに関する討議

4 - 5回 テーマに沿った基本文献の検索
アプローチの方法、内容の検討（基本レポートの作成）

6 - 8回 基本レポート1 の発表、検討

9 - 11回 テーマについての再検討・拡大検討（ゼミ論レポート作成）

12回 4年生徒の卒論交流会

13 - 15回 卒業研修試論としてゼミ論レポートの報告会

評価

テーマ設定・レポート作成が60点、授業への参加度30点、授業態度が10点、合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に内容、テーマにあわせて紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 に続けて履修し、卒業研究の準備を行う。

環境問題と国際社会の両方、あるいは、どちらか一方に関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始める。それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。

学期末に発表する論文を、卒業研究の第1段階と位置づけられるものとする。要望があれば、学園祭等でそれまでの調査結果を発表することも支援する。

内容

第1回～第4回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5回：テーマ発表

第6回～第13回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14回：レポート体裁確認・提出

第15回：レポートの最終発表

評価

発表・討論への参加(30%)レポート(70%)で総合的に評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】小笠原喜康 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書 2002年

【参考図書】戸田山和久 『論文の教室 - レポートから卒論まで』 NHKブックス 2002年

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次前期の演習 に続けて、社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学について、より研究を深める。4年次に仕上げる卒業研究のテーマを絞り、そのテーマに関する先行研究と既存資料を整理する。

内容

1. 家族社会学や社会学の学会誌、例えば、『家族社会学研究』、『家族問題研究』、『社会学評論』などから、各自の関心あるテーマの研究論文を探し、論文一覧を作成し、それぞれの論文を要約する。
2. インターネットを使って、総務省統計局や厚生労働省の官庁統計のうち、それぞれの関心領域のデータについて検索し、整理する。
3. 情報資料センター所蔵の『朝日新聞データベース』を使って、各自の関心テーマに関連する過去の新聞記事を検索し、記事一覧を作成し、それぞれの記事を要約する。
4. 東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターのデータアーカイブに提供されている個票データを使って、各自の関心テーマに関連した量的調査のデータを統計分析する。

評価

授業中の発表や討議(40%)と学期末のレポート(60%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書と推薦書は、参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会のいろいろな問題を考えていくには様々な視点と方法がある。この授業では具体的な対象をデータや論理によって判断していく力を身につけることをねらいとしたい。

内容

- ・現在起こっている諸問題の理解 - 資料などを提示しそれをもとに検討する、自分で調べまとめ発表する、議論の仕方などを勉強する。
- ・ゼミ論 - 自分でテーマを設定しレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。その中から文章を作成していく。
- ・時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ディベート - 効果的な議論の仕方を学ぶ。

評価

平常点(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

九鬼太郎「超格差社会・韓国」扶桑社新書

池上彰「池上彰のメディア・リテラシー入門」オクムラ書店

科目名	卒業研究		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

後期の卒業研究 とともに、卒業に必要な卒業研究を完成させる。

科目の概要

日本及び諸外国における政治・社会・経済・文化などの諸問題について、ジェンダーの視点で分析した卒業論文を完成させる。4年の夏休みの終わりまでに第1次草稿、12月中旬の卒論締め切りまでに最終論文を提出。橋本ヒロ子ゼミでは、文献やネット情報だけでなく、実際にアンケート調査や現地調査などを実施して独自性のあるテーマによる論文を仕上げることを重視。

学修目標

テーマについて分析の仕方、調査方法を身につけ、論文の書き方について習熟する。当該テーマについて、説得性のある独自の視点を打ち立てる。

内容

03年度生以降の卒論テーマは以下の通りです。

03年度生：街のバリアフリー～駅のバリアフリー化／女性のパートタイム労働：管理職や専門職への登用／メディアにおけるスポーツ女性の表現／女性管理職企業の取り組みと今後のあり方／魔女狩りの歴史 現代の魔女狩りとは／女子学生のファッションの現状と課題／児童文学に描かれた家族像／ダイエットと摂食障害／大卒女性のライフコース／CMのジェンダー分析／夫婦選択別姓

04年度生：仕事と育児によって男女間で格差が生まれてしまうのは何故なのか：家庭生活の側面から分析／アジアにおける人身売買犠牲者のエイズ問題について／キャンパス・セクシュアル・ハラスメント～現状と大学の課題～／子どもに対する性暴力の実態と対策／子どもの孤食～なぜ、一人で食べるのか～／フェアトレードの課題：有機コーヒーに焦点をあてて／国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国人女性の比較調査より -

05年度生：子育てとジェンダー～男性が子育てに参加できる社会とは～／メディアとジェンダー～テレビアニメを中心として～／Comparative Study on Primary School Children in Japan and Canada/ 女人禁制の歴史と現状 - 大峰山に焦点を当てて - /遊郭と呼ばれた花街島原～女性による

文化継承～／現代中国女性の労働意識 専業主婦の出現と今後の動向/中国人の観光旅行に関する一考察/中国における一人っ子政策/ホスピタリティについて～ホテルのサービスに焦点を当てて～/ピンクリボン運動の現状と課題

06年度生：江戸時代庶民の子育てと学び／音楽療法による効果に関する一考察／中国における日本企業の社会的責任／未来の女子大学が果たす役割／宮崎アニメの世界と現代の環境と女性の比較

07年度生：若い女性とうつ病～実態と解決策を考える／沖縄県における地域子育て支援と出生率の関係についての研究／韓国ドラマおよび音楽が日本に与える影響／南部アフリカ諸国においてH I V /エイズが女性に及ぼす影響について／宝塚歌劇団と女性～ジェンダーの視点から～／選択性夫婦別姓制度～世論調査で反対派が多い原因を探る～／ワーキングマザー

～ かかえる問題と行政などによる保育支援～

評価

論文の内容（75%）、ゼミ活動への貢献（25%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書：各自の卒論テーマごとに指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 3年時の演習 ・ を履修による必修科目

2 卒業論文の作成を進め、7月のテーマ報告の発表につなげ、概要の作成まですすめる。

内容

前半は論文執筆に関わる共通の内容を学ぶグループ指導を行い、後半はテーマに基づく個別指導を行う。

<グループ指導>

- ・ これまでの卒研、関連論文を読む。
- ・ 作成手順、方法についての学習
- ・ データベース利用など

<個別指導>

- ・ 設定したテーマに基づく個別指導
- ・ アプローチ、方法の検討

7月 テーマ発表会

テーマ、設定理由、論文構成、関連文献など

評価

卒論作成状況 60点、授業への参加度 30点、受講態度 10点 の合わせて 100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自のテーマに合わせて、文献を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、3年次の「演習・」及び「原典購読」で学んだ環境問題と国際社会についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

これまでの卒業論文のテーマ

「地球環境と森林伐採」、「リサイクル社会を目指して」、「食と地球環境問題」、「エコロジー流行の実態」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「異文化理解と教育」、「世界の貧困問題」、「イラク戦争開戦の背景」、「小国の独立 - 少数民族の民族意識」など。

内容

第1回～第5回：個々のテーマ選択、問題提起

第6回～第11回：テーマに関する情報収集

第12回～第14回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備

第15回：テーマ発表会

評価

発表・討論への参加(25%)、中間報告(75%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会学の中でも、実証研究によって成果をあげてきた家族社会学の研究方法によって、個々の学生の卒業研究を進める。演習、演習、原典購読を通じて絞られた個々の研究テーマについて、実証データを収集して、分析を進める。

内容

参加学生個々の研究テーマに応じて、以下の作業を進める。授業時には、それぞれが中間報告し、討論することで、解釈を深める。

1. 先行研究を収集・整理・分析する。
2. 官庁統計などの既存統計を収集・整理・分析する。
3. 社会調査(事例調査または統計調査)を計画・実施する。
4. 卒業論文(本文14,000字から20,000字)の構成を決定する。

なお、近年の卒業論文のテーマは、以下のとおりである。

- 「未婚男女が結婚相手に求める条件 - 『婚活』ブームと未婚晩婚化 - 」
- 「保育所入所待機児童の地域格差についての研究 - 川崎市と魚沼市の地域子育て自主サークルの比較調査より - 」
- 「ペットのしつけとその意味 - 犬の飼育の場合より - 」
- 「しつけの社会史」
- 「女性の家事負担とその軽減の可能性」
- 「日本におけるたばこ対策」
- 「児童館の民間委託とその課題 - 狭山市における児童館指定管理者委託の事例から - 」
- 「女性起業家の仕事と家庭」
- 「国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国人女性の比較より - 」

評価

授業中の発表や討議(50%)と学期末の卒業研究中間報告(50%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生個々の研究テーマに応じて、推薦書を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、
情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする。

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書

科目名	卒業研究		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

後期の卒業研究 とともに、卒業に必要な卒業研究を完成させる。

科目の概要

日本及び諸外国における政治・社会・経済・文化などの諸問題について、ジェンダーの視点で分析した卒業論文を完成させる。4年の夏休みの終わりまでに第1次草稿、12月中旬の卒論締め切りまでに最終論文を提出。橋本ヒロ子ゼミでは、文献やネット情報だけでなく、実際にアンケート調査や現地調査などを実施して独自性のあるテーマによる論文を仕上げることを重視。

学修目標

テーマについて分析の仕方、調査方法を身につけ、論文の書き方について習熟する。当該テーマについて、説得性のある独自の視点を打ち立てる。

内容

03年度生以降の卒論テーマは以下の通りです。

03年度生：街のバリアフリー～駅のバリアフリー化／女性のパートタイム労働：管理職や専門職への登用／メディアにおけるスポーツ女性の表現／女性管理職企業の取り組みと今後のあり方／魔女狩りの歴史 現代の魔女狩りとは／女子学生のファッションの現状と課題／児童文学に描かれた家族像／ダイエットと摂食障害／大卒女性のライフコース／CMのジェンダー分析／夫婦選択別姓

04年度生：仕事と育児によって男女間で格差が生まれてしまうのは何故なのか：家庭生活の側面から分析／アジアにおける人身売買犠牲者のエイズ問題について／キャンパス・セクシュアル・ハラスメント～現状と大学の課題～／子どもに対する性暴力の実態と対策／子どもの孤食～なぜ、一人で食べるのか～／フェアトレードの課題：有機コーヒーに焦点をあてて／国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国人女性の比較調査より -

05年度生：子育てとジェンダー～男性が子育てに参加できる社会とは～／メディアとジェンダー～テレビアニメを中心として～／Comparative Study on Primary School Children in Jap

an and Canada/ 女人禁制の歴史と現状 - 大峰山に焦点を当てて - / 遊郭と呼ばれた花街島原～女性による文化継承～ / 現代中国女性の労働意識 専業主婦の出現と今後の動向 / 中国人の観光旅行に関する一考察 / 中国における一人っ子政策 / ホスピタリティについて～ホテルのサービスに焦点を当てて～ / ピンクリボン運動の現状と課題

06年度生：江戸時代庶民の子育てと学び / 音楽療法による効果に関する一考察 / 中国における日本企業の社会的責任 / 未来の女子大学が果たす役割 / 宮崎アニメの世界と現代の環境と女性の比較

07年度生：若い女性とうつ病～実態と解決策を考える / 沖縄県における地域子育て支援と出生率の関係についての研究 / 韓国ドラマおよび音楽が日本に与える影響 / 南部アフリカ諸国においてH I V / エイズが女性に及ぼす影響について / 宝塚歌劇団と女性～ジェンダーの視点から～ / 選択性夫婦別姓制度～世論調査で反対派が多い原因を探る～ / ワーキングマザー

～ かかえる問題と行政などによる保育支援～

評価

論文の内容（75%）、ゼミ活動への貢献（25%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書：各自の卒論テーマごとに指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 3年時の演習1・2、4年次前期の卒業研究 を履修した後の、卒論作成のための必修科目。

2 これまでの学習を素に、卒論研究を完成させる。

内容

各自のテーマに沿った個別指導を中心に、12月の提出に向けた計画づくりを行い、完成させる。

- ・個別のテーマに沿った指導
- ・アンケート調査が必要な場合は、その設計・実施
- ・11月 中間発表
- ・12月 提出
- ・1月 論文報告会開催

評価

卒業研究については、コース内の教員で査読を行い、論文形式、内容に基づき総合評価を行う。
それにもとづき主査が最終評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個別のテーマに応じて、参考文献を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 に続けて、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。集めた情報の体系的整理・分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。研究の中間報告では、互いに、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。その議論を通じて、明確な論理と文章を備えた、わかりやすい論文作成につなげたい。

内容

- 第1 回～第5 回：リサーチの経過報告
- 第6 回：テーマの最終決定
- 第7 回～第11 回：リサーチ及び卒論執筆
- 第12 回～第14 回：論文体裁の最終確認
- 第15 回：卒論発表会

評価

発表・討論への参加(25%)、卒業論文(75%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年次前期の卒業研究 において準備してきた卒業研究を、理論性を持ち、かつ、独創性を具えた研究論文としてまとめ、大学4年間の履修上の総仕上げをする。

内容

卒業研究は、以下の手順によって進められる。参加学生は、各自、卒業研究を中間報告し、討論によって研究内容を深める。担当教員は、個々の研究課題に対して理論や接近法を助言するとともに、研究論文の執筆について技術指導する。

1.研究テーマの設定

なぜ、その研究に着手することにしたのか、着想に至った経緯などを整理し、何をどこまで明らかにするのか、研究の目的を明確にする。

2.先行研究の検討

すでに明らかになっていることを整理・検討し、まだ明らかにされていない、研究が着手されていない、残されている課題を把握する。

3.独自性・独創性のある理論の展開

文献資料や社会調査によって、データを収集・整理し、それを分析することで明らかにされた新たな知見を論理的に提示する。

4.今後の課題

研究によって明らかになったことをまとめ、さらに、扱いきれなかった、残された課題を把握する。

評価

授業時の研究発表と討論(20%)、卒業論文(60%)、口頭での研究報告(20%)によって総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生個々について、それぞれの卒業研究に合わせて推薦書を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、
情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする。

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房